

# TOTO

2012年 夏号

Toward a Creative  
Architectural  
Scene

# 通信



特集

# タダの箱

Special Feature / When a Box Isn't Just a Box

建築がタダの箱であってもなんの問題もない。しかし、現にタダの箱から跳躍して、建築として自己主張するすばらしい建築作品が生まれていることも事実だ。そこにはさまざまな発想、手法があり、ひと言では語りつくせない世界が広がっている。小さな住宅建築であるがゆえの試みと努力もあり、その向かうところ、手法の追求はまだまだ続くにちがいない。平面を切り口とするもの、断面に新しい世界を切り開くもの、さまざまな努力が続いている。その試みのいくつかを取り上げた。



photo by Kawabe Akinobu



photo by Kawabe Akinobu

Special Feature

Part **2**  
Conversation  
+  
Case Study

# TOTO 通信

Toward a Creative  
Architectural Scene  
Number 497  
Summer 2012

## Contents

Page

特集1/ケーススタディ

### 原形はランプの家 4

「経堂の住宅」長谷川 豪

特集2/対談+ケーススタディ

### 平面の発想から 12

「綴の家」植木幹也+植木茶織  
「HOUSE y」河内一泰

特集3/対談+ケーススタディ

### 断面からの発想 28

「Small House」畝森泰行  
「トシゴヤ」根津武彦

シリーズ

旅のバスルーム 84 文 スケッチ/浦 一也 44  
カンダラマ(スリランカ ダンブッラ)

現代住宅併走 20 文/藤森照信 46  
吉田研介の「チキンハウス」

最新水まわり物語 30 渋谷ヒカリエ 52

地域に生きる会社 57 ニューハウス工業 58

TOTOギャラリー 間で スタジオ ムンバイ展 60  
展覧会をします 「PRAXIS」

news file 62

「TOTO通信」を  
インターネットで  
ご覧いただけます。

TOTO Web Site

[www.toto.co.jp](http://www.toto.co.jp)

表紙/「経堂の住宅」(4~11ページ参照)と  
長谷川豪さん。  
写真/川辺明伸

編集制作/中原大久保坂口編集室  
デザイン/岡本一宣デザイン事務所  
印刷/ゼネラルアサヒ

# 特集 タダ の箱

Special Feature

Part **1**  
Case Study



photo by Kawabe Akimasa

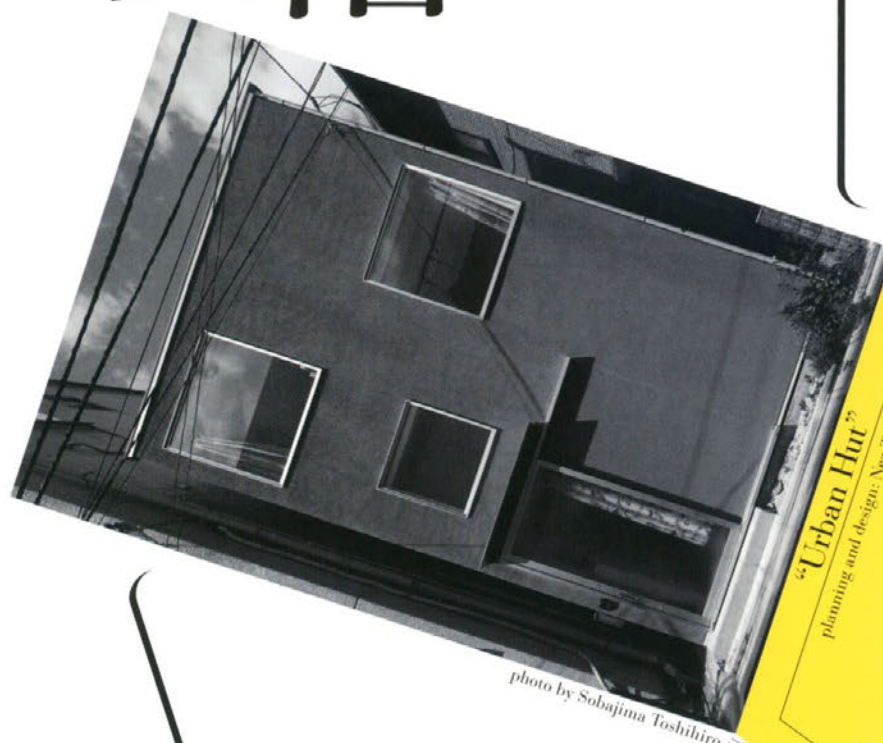


photo by Sobajima Toshihiro

“House in Kyoto”

planning and design: Hasegawa Go

“Urban Hut”

planning and design: Nez Taketiko

“Tazumi house”

planning and design: Ueki Miyuki + Ueki Saori

Special Feature

When  
a Box Isn't  
Just a  
Box

planning and design: Umemori Hiroyuki  
“Small House”

planning and design: Koichi Kazuyasu  
“HOUSE Y”

Special Feature

Part **3**  
Conversation  
+  
Case Study



photo by Sobajima Toshihiro



# 原形はトランプの家

取材・文／中原 洋 写真／Iwan Baan

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part

1



Case Study

“House  
in  
Kyodo”

舟底天井は銀色、空間を大きくとり、外部の光を反射。この一室空間の写真手前にはテラスがあって、外部に開かれている。



写真/川辺明伸



タダの箱を、ひとつの建築作品としてジャンプアップさせるには、さまざまな設計手法があるにちがいない。日本の建築界が生み出した、いくつもの名作といえる小さな住宅を思い起こすことができる。とはいいながら、建築手法そのものは時代によって変化しつづけている。ある意味、ここに取り上げた長谷川豪設計「経堂の住宅」(2011)は今という時代の動きのなかで、それら名作を想起させるだけの、ある特異点に立っていることを感じた。

## 変わらぬ物語性

長谷川豪さんの作品を見ると気づくのは、単なる建築拜見という作業とは異なる感覚で見ている自分だ。それは彼の作品を見るたびにひとつのポイントとして浮かび上がってくる。デビュー作「森のなかの住宅」(06)以来感じる変わらない印象といえる。あいまいではあるけれど、それをある種の物語性といってもいいような気がしている。問題はそれがどこから来るのかという検証だろうか。

「森のなかの住宅」が発表されたとき、自分なりに分析したのを覚えている。まずは写真の表現の美しさもあつたのだろう。木々に囲まれた暗い森、光が落ちてきて黒い建築の造形性を際立たせている。純粹な家型、形を強調する黒色の外観。撮影地点に距離があり、建築のサイズをあいまいにしている。そして、屋根の上に加えられた建築本体に比してやや大きめとも見える、浮いたようなテラス。それは場と形と色彩、加えて微妙なプロポーションの違和感を極限まで詰めて、別次元の物

語性を発するところまで作品は昇華されると感じた。造形力にディテール、突き詰めた集中力から生まれたとしかいいようのないもの。

## 異質な軽さ 「経堂の住宅」

「経堂の住宅」の前に立って、まず感じるのは、その形状のシンプルさだ。子どもが描くような家の原形がそこにある。それを建築家の視点で磨き上げ、形にしている。とはいえ、そこにはある種の違和感がある。どこが違うのか。ひとつは妻側から見た建物のプロポーションからくる違和感だろうか。なじんだことのないこの建築のプロポーションの異質感がここにはある。

幅3504mm、高さ5358mm。確かにこのプロポーションは、どこにでもある町なかの見慣れた住宅とは異なっている。日常的に見る家のプロポーション感から、明らかに逸脱している。

長谷川作品を過去にさかのぼって見直してみると、そこにはプロポーションと断面の意識の存在が強いと感じる。6・5mの空中に漂う居室の家「森のピロティ」(10)はあえて別格としてもだ。簡単にいうと、この「経堂の住宅」の場合、妻側から見えるのは、ちょ

っと天井高の大きい家の1層分としてありえるサイズ。その不思議さは、前面に長谷川さんが立つ表紙の写真からも感じてもらえるだろう。

明らかに意識的な操作がここにはある。1階、床1天井の高さ1820mm。住み手の身長からぎりぎりの空間が算出されている。結論からいえば、この1階の天井高が、この建築全体のプロポーションに変化をつけ、さらに居住者の生活に過不足のない空間を生み出している。1階は小ぶりに、2階は大きく開放されている。色彩、素材感の変化も大きい。その階高の差が生み出したもうひとつのポイント。縦の平面図に対して、横に切った階段だろう。一般的にいえばこの距離では1本の階段で2階へは上りきれない。極端に勾配のきびしい階段が必要になるはずだ。しかし、1階の階高を抑えることで、この横に切る階段の無理のない設計が可能になっている。1段190mmの蹴上げに、踏み込み200mm。10段で無理なく2階へ上っている。造形的には、見、体の木を削り出したごとくに、体感を感じる彫刻的な階段が設定された。軽やかな建築全体のなかでここだけ存在感を強調している。

意識的なプロポーションの操作が、内部における昇降の問題点をも、挙に解決している。施主の要望から生まれた形だといえけれど、注意深いヒアリングの成果だろう。

## ぎりぎりの ディテール

もうひとつ、妻側から見て気づくのは、極限まで整理し突き詰めたと見えるディテール

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part  
1



Case Study

“House  
in  
Kyodo”

だ。そのディテールによって、この建築の造形性は極端に明快になる。

形が示され、ディテールによって形が意味をもってきた。ディテールと形が 体になって、この繊細な造形は成立したということか。シンプルさこそが突き詰められ、形が明快になっている。

図面はほとんど原寸で描いているという。

妻側側面の壁は、フレキシブルボード7枚。上下でサイズに変化がつけられている。ともに既成サイズを使い、上は大判の4'×8'を3枚、下は3'×6'を4枚。1階部分を小さく見せようとする視覚的意識的操作だろう。

その上に被る屋根はもつと明快に形を発言している。厚さ約60mm。銀色に仕上げられている。その結果、屋根は1枚の金属板のように。軽く、存在感を消していく。屋根の裏側は鉄板垂鉛引板の銀色をそのまま表し、その向こうから入ってくる光を反射して透明感を高めている。

躯体との接点の処理がそれをさらに強調する。一点で接しているだけに見える。アングルを使って結束している。接点が消えることで屋根は軽やかになる。

樋の仕組みが気になった。雨を隣地に落とさないために、この60mmの厚みの中に樋が仕込まれている。集まった雨の落とし口は、なんとシンプルに中央近くに各2カ所、穴があけられ、そこから東になって雨が落ちる。シンプルさを追求すればこうなるだろうと納得した。明らかな雨落としの仕掛けは、ここにはありえない。

この側面は、ほとんどミニマリズムと叫んでいる。ちなみに、内部にいて雨音をまったく感じなかった。屋根には一重に断熱材が入っているとのこと。原寸で描いたという図面



配慮された開口部がオープン、クローズドで家の表情を大きく変える。

に納得する。

ある意味、玩具を巨大化した家ともいえるだろうか。形を追った純粹表現を確保するために、シンプルシティが追求された結果だ。そこに相当なエネルギーが注ぎ込まれているであろうことは明白だ。建築でありながら、指物師の仕事のように。たとえば、屋根を1枚の金属板と見せたいがために注がれたエネルギーを感じる。

壁厚もそうだ。厚さ124mm。扉を開けた瞬間、断面が現れる。建築全体を繊細に見せることに役立っている。図面では気づきにくいところだ。この壁面を確保するために、2階の床荷重は、1階の5本の本棚の両サイドの側板に分散、分担させている。

## トランプの家のように

この家の発想の原点は、板を立てかけたような、トランプの家をイメージしたところにあるという。立てられたトランプが寄りかかりながら立つ構造物。そのイメージを完遂するために、屋根、壁の見付けはここまで絞り込まれたのだ。

その総体としての結果が、おのずからメッセージ性を送り出している。形態の純粹性がこの家に新たなストーリーを生み、建築を建築化しているということだろう。住むという機能を完結しながら設計の特異点を探るとは、そういうことなのだろうか。

この小さな空間の内部1、2階に込められた、おのおの別世界の表情は鮮やか。箱が箱でなくなる見事さ。暮らしそのものもまた受けとめられている。



Part

Special Feature / When a Box Isn't Just a Box

Case Study



### 1階/書斎

施主の身長に合わせて設定された階高1820mm。2階荷重は林立する本棚の側板が分担して、建築全体を軽やかに見せている。

### 2階/テラス

道路側の2階テラス。大きな開放感をつくりあげている。室内からの連続感が空間を広げている。

### 庭側の側面

2階空間は手が届きそう。不思議な距離感。開口部の開け閉めで建築の表情は大きく変わる。







## 1階／玄関

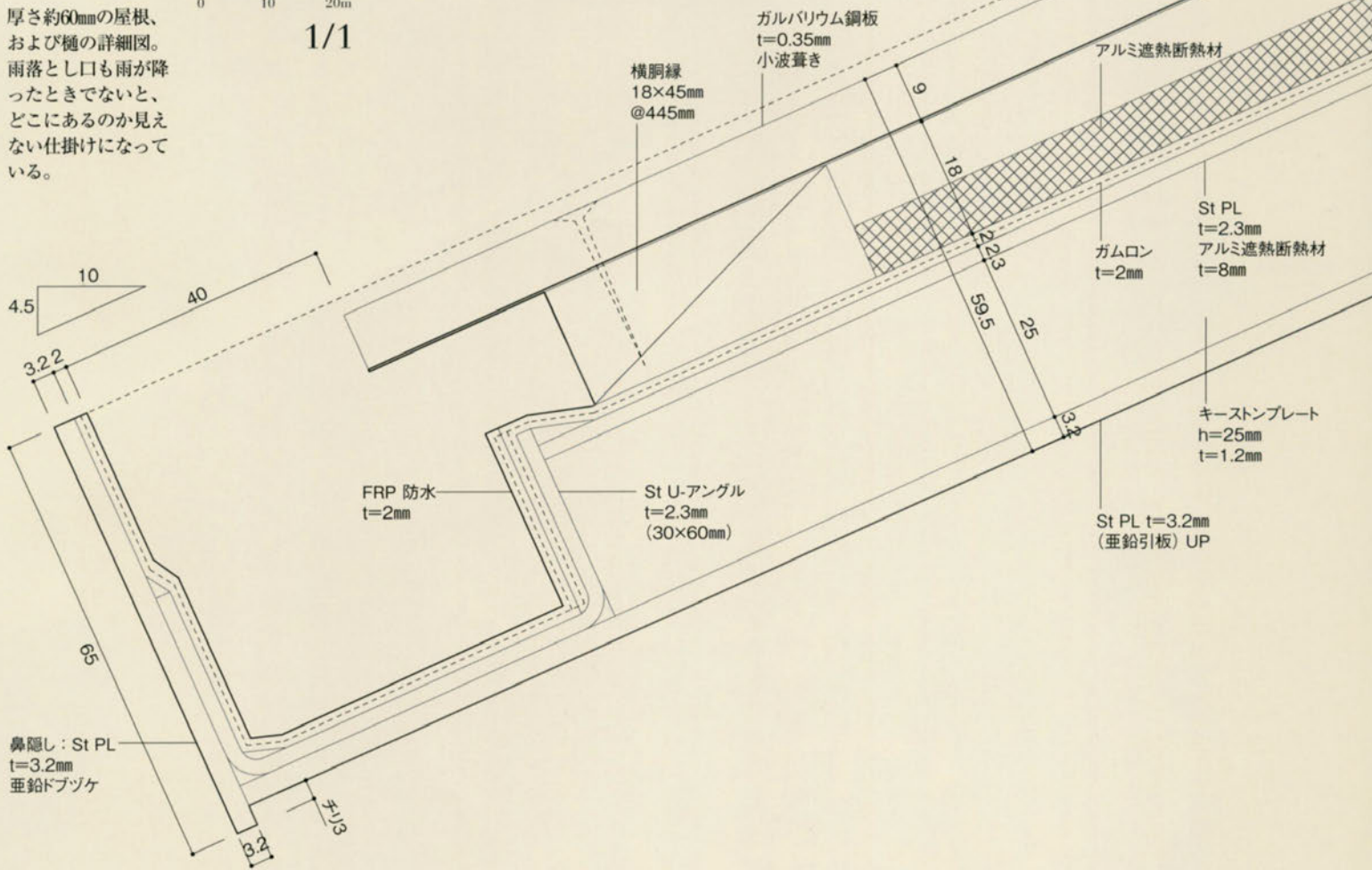
地面すれすれの床面の開放感は強い。彫刻的な階段はこの家の中心になって存在感を主張している。

# 経堂の住宅

## 屋根詳細図

厚さ約60mmの屋根、および樋の詳細図。雨落とし口も雨が降ったときでないと、どこにあるのか見えない仕掛けになっている。

0 10 20m  
1/1

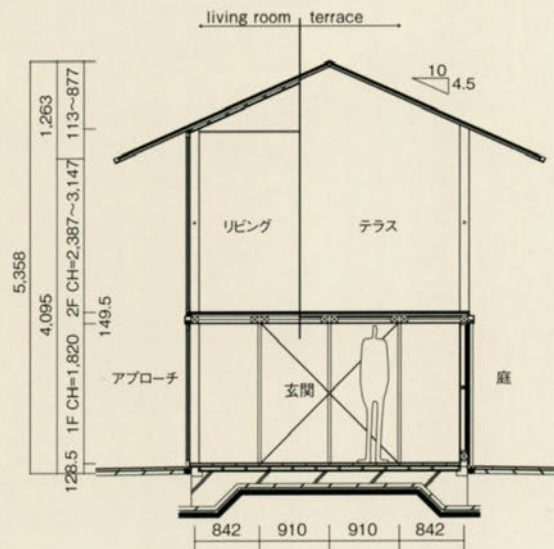


## 断面図

1、2階の階高、全体のプロポーション感は図面だと明解に現れてくる。

0 1 2m

1/100



Part

1

Special Feature / When a Box Isn't Just a Box

Case Study



写真(上下)/川辺明伸

**建築概要**

所在地	東京都世田谷区
主要用途	専用住宅
家族構成	夫婦
設計	長谷川豪・大庭早子/ 長谷川豪建築設計事務所
構造設計	オーノJAPAN
施工	泰進建設
構造	木造
階数	地上2階
敷地面積	72.89㎡
建築面積	33.95㎡
延床面積	67.90㎡
設計期間	2010年6月~2011年2月
施工期間	2011年3月~8月

**おもな外部仕上げ**

屋根	ガルバリウム鋼板t=0.35mm 小波葺き
外壁	繊維強化セメント板t=4mm 撥水剤塗布
開口部	木サッシ(防火仕様)
外構	コンクリート平板 300×300mm t=30mm

**おもな内部仕上げ**

<b>1階</b>	
床	コンクリート平板300×300mm t=30mm 撥水剤塗布
壁	繊維強化セメント板t=4mm 撥水剤塗布
天井	ラワン合板t=5.5mmUP
<b>2階</b>	
床	ラワン合板t=12mm
壁	繊維強化セメント板t=4mm 撥水剤塗布
天井	St PL t=1.2mm(垂鉛引板)UP

**長谷川 豪**

Hasegawa Go

1977年埼玉県生まれ。2002年東京工業大学大学院修士課程修了。02~04年西沢大良建築設計事務所。05年長谷川豪建築設計事務所設立。09年より、東京工業大

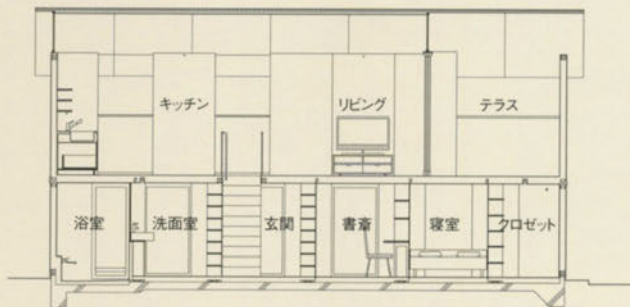
学、東京理科大学、法政大学、非常勤講師。

おもな作品=「森のなかの住宅」(06・SDレビュー2005鹿島賞、東京ガス住空間デザインコンペティション1等、東京建築士住宅建築賞金賞)、「桜台の住宅」(06 第24回新建築賞)、「五反田の住宅」(06)、「練馬のアパートメント」(10)、「森のピロティ」(10)、「日本デザインセンター」(12)、「石巻の鐘楼」(12) など。

**断面図**

0 1 2m

1/150

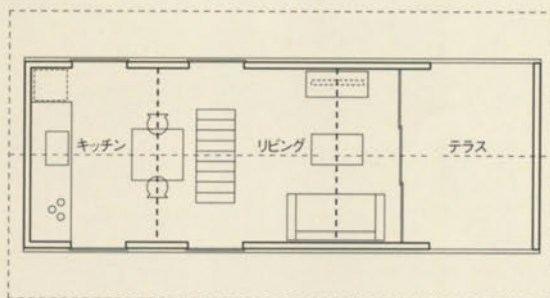


**平面図**

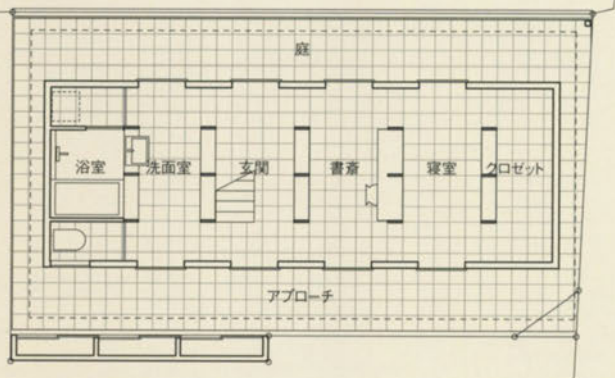
0 1 2m

1/150

2F



1F





話し手 植木幹也



話し手 植木茶織

まとめ/加藤 純 写真/川辺明伸



2組の  
建築家が  
語り合う  
お互いの  
仕事

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box



Conversation  
+  
Case Study

“Tsuzuri  
house”

ケーススタディ

その1

「綴の家」

内庭と外と等価に接する

# 平面の発想から

ケーススタディその1

「綴の家」

設計/植木幹也+植木茶織 →

ケーススタディその2

「HOUSE y」

設計/河内一泰

部屋4上部の屋上バルコニーから、中庭を見下ろす。建物の中心にある中庭は矩形ではなく、し字型の壁が組み合わさったような形状。中庭には建物のまわりと同じように接することが意識され、開口部が設けられた。

Kochi Kazuyasu



聞き手

河内一泰

— 本日は植木幹也さん、茶織さんと河内 泰さん、2組の建築家が設計された住宅をお互いに見ていただきました。もちろん設計の背景や条件、意図は異なりますが、どんな共通点があり、どんな違いがあるのか。それを見ながら、みなさんのお考えをお聞かせください。基本には「距離と視線」の操作が意識され、それが平面に表れてきていると感じました。まず植木さんから、「綴の家」のコンセプトをうかがえますか。

**植木幹也（以下、幹也）** 建て主は「中庭がほしい」と言っていて、建物の中心に四角い中庭があるプランを自ら描いてくれました。いわゆるコートハウスといわれる形式です。よく聞いてみると、「周囲に閉じた中庭」を望まれているわけではなく、「光が入り風の通る中庭のある暮らし」がしたい、ということがわかってきました。また、奥さまはすぐ裏手にある実家で育ち、近隣と良好な関係をもちつづけているので、外に対して閉じる必要はありませんでした。

それで、空間の関係をより豊かにできる中庭のあり方を、周辺環境との関係も含めて検討することにしました。

**植木茶織（以下、茶織）** 中庭をこれまでとは違った方法で、生活を豊かにするものとしてつくれないかと考えたのです。

**幹也** 一般的なコートハウスを分析してみると、建物の真ん中に四角く設けられた中庭は自立性の高いスペースとなっています。「綴の家」では中庭の強い性格を排除し、中庭以外の周辺環境にも視線が行くようにしたいと考えました。プラン上では、真四角の空間をL字型の壁で仕切り、残ったスペースを中庭としています。

**茶織** L字型の壁の裏側に路地のような中庭をつくることで、採光や通風は確保できます。中庭を中心に据えなくても、従来の中庭にはなかった空間の関係性ができるのではないかと考えたら、すべてのものが決まっていきました。

**幹也** L字型の壁を使って要求されている部屋をつくるのですが、部屋のそれぞれの壁面は、周辺に対して同じ程度の長さで接します。それで、できた空間は中庭と周辺の双方の外部に接することになります。できる限り各壁面にひとつずつ窓をあけて、部屋の4面に窓をとっています。外部に等価に接することでそれぞれの部屋が自立



## 話し手

### 植木幹也+植木茶織

Ueki Mikiya & Ueki Saori

「綴の家」の前に立つ  
植木さんご夫妻。

し、内部の独立性が高まります。また、全周が外部と接することで中庭の中心性が排除され、空間の関係性が変わってくることをねらいました。水まわりもほかの部屋と同じように並べたいと思い、スペースを大きくとっています。

**河内一泰** L字型を意図されたというのは知らなかったのですが、言われてみれば確かにそうですね。

**幹也** L字型に囲まれることが意識されるように、ディテールの処理にも注意を払いました。部屋の間仕切り壁の端では仕上げを少し飛び出させて切りっぱなしのように見せています。

**河内** L字型の壁の操作は、空間に亀裂を入れるような処理なのかと感じました。

**幹也** そう考えてもいました。一般的な中庭は箱に押し込めるようなイメージですが、それに対して、元からあった箱に亀裂を入れながら中庭をつくるという考え方です。

**茶織** 中庭に形を与える方向ではなく、四角い空間を分け、残った亀裂が中庭としてある。そして、壁の裏側のようなものができているというイメージもありました。

**河内** 亀裂というほうが、自分にとっては理解しやすいですね。部屋同士の間仕切り壁が、厚みをもって外部の「隙間」としてできてくるような雰囲気ですね。

**幹也** そうですね。部屋は壁面を共有していません。部屋の独立性が高くなると、壁で仕切られた部屋とは違う距離をもつ感覚で受け入れられるだろうと考えました。

**河内** 隙間にある両側の壁の端が揃っているのは、もともとはひとつの壁だったからですね。ひとつの壁が分かれて、移動して隙間ができた。実際にこの住宅を体験したときは、中庭にいるときよりも室内にいるときの方がおもしろいと感じました。中庭を居場所ではなく隙間ととらえると、しつくりときます。その隙間が、部屋同士の距離感をつくっているとあらためて感じました。そして隙間のロフトスペースは、本命の空間ではない居場所として、裏側という感じが強くておもしろい。僕はここまでいろいろ考えて計画できませんね。全体として、居心地のいい家だと思いました。

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box



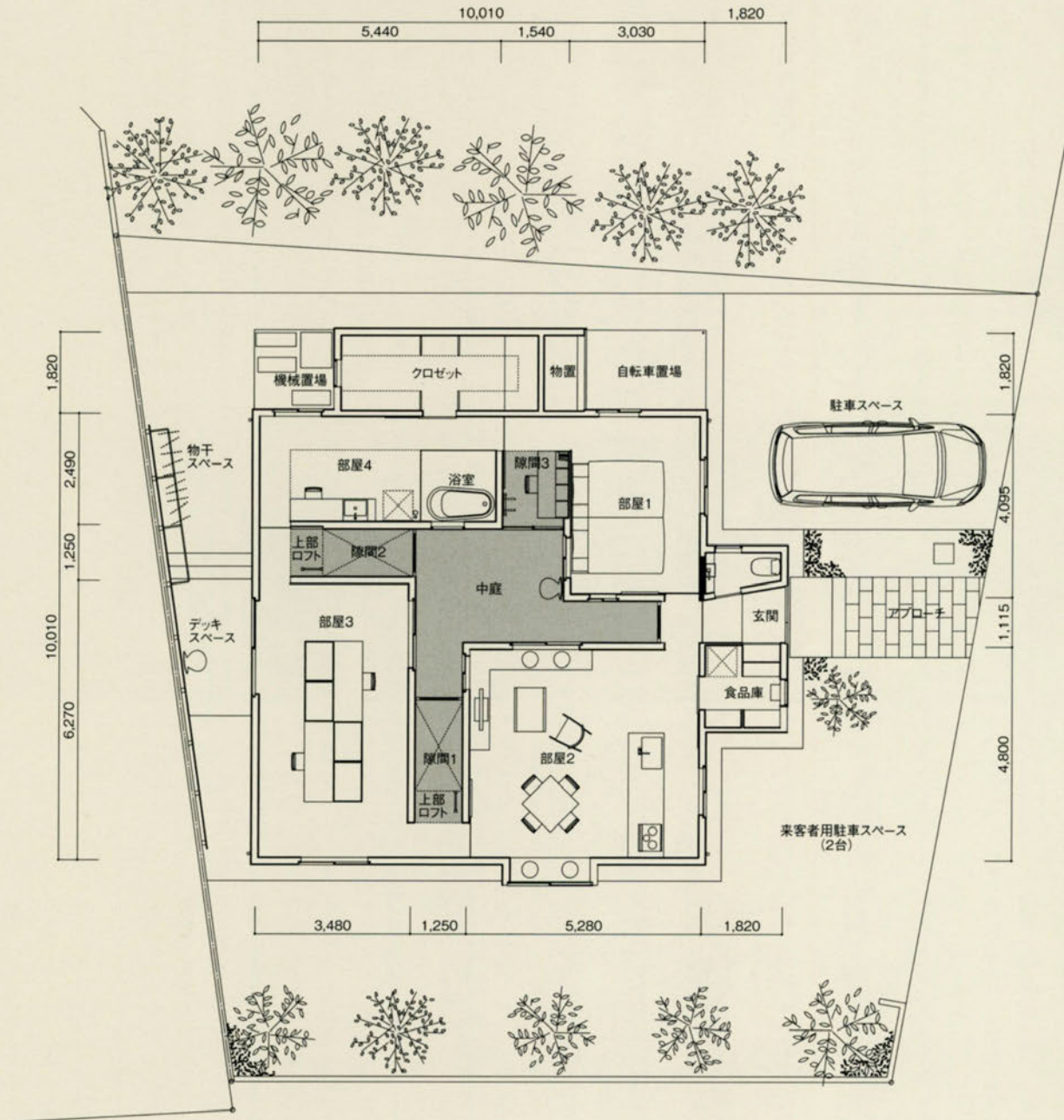
## Conversation + Case Study

“Tsuzuri  
house”

# 「綴の家」平面図

0 1 2m

約10m四方の正方形からL字型の壁を用いて大ききの異なる4つの部屋に分け、真ん中にできるL字型の壁と壁の間隙を中庭とする。



L字型の壁の裏側に  
路地のような  
中庭をつくる。



1/150

# 箱を開くときの窓のあけ方

河内 この敷地で、なぜ箱から計画を始めたのでしょうか。都心部では敷地の条件が家の形をつくってしまうことが多いですが、この家の敷地は郊外で余裕があるように感じられたからです。現地でもわりの住宅を見てみると、箱というよりも屋根ありきの建物がほとんどでした。そのような状況で、箱からスタートするのは自分にとって少し違和感があったように思うのですが。

幹也 中庭をいかに変えられるかを考えるときに、形自体があまり意味をもたないほうがよかったですね。正方形は形状としては強いのですが、内部や周辺環境との関係がより明らかに見えてくると思ったのです。

河内 「箱」という言葉は、あらためて考えるとおもしろいですよね。箱は本来は閉じるためにつくられるものですが、現代の住宅では開くことと閉じることを同時に考えつつ、閉じることからスタートする。また、箱は単純なワンルームの空間ですが、その中でいかに複雑な関係をつくるかというのを考える。今回の「綴の家」は基本的にワンルームだと思うのですが、単に区切ることはしていません。窓から中庭を挟んで見えたり見えなかったりという奥行きや距離感はおもしろいと思いました。方で周辺環境との関係は、中庭に向く意識ほどは高くないと感じたのですが、いかがでしょうか。

幹也 見せるものと見せないものの操作の違いですね。中庭をもつことで内部は安定しているので、外周に向かっては開けても閉じてもよかったですね。このとき、たとえば窓にレースのカーテンをかけることなく、なるべくなら生活が周辺にこぼれ出るような状態にしてコミュニケーションをとるようにしたかった。それで、周辺に対しては日常生活との接点とするところを選び、見せるものと見せないものを考えながら窓の位置や形を設定しました。

河内 外構は本格的にはこれから、ということでしたね。茶織 ええ。ただ、敷地境界に塀は設けず、植栽を設けることで外部との関係性をつくらうとしています。この住宅街は余裕があるとはいえず、まわりの家との距離が比較的近いのですね。箱を開きながら閉じる、または閉じながら開くというときに、大きく開くよりも視線を少しずらして生活が垣間見えるようにしたほうがいいと考え



写真右/部屋3から水まわりの部屋4を見る。中/写真右の見返し。左/部屋2は東西南北すべての面に開口部をもつ。

ました。

河内 箱を開こうというときに、不特定多数の人が家の前を通る都心部に対して、見知っている人が通る郊外では開き方が違ってくるように思います。郊外では、食事や来客の様子を見られたくなかったりしませんか。郊外の環境のほうが、逆にまわりに対して閉じていく傾向が強いようにも思うのですが。

幹也 大量生産的につくられている住宅の流れが、閉じた生活をさせているように思います。以前はあたりまえのようにあった縁側や外部空間はそぎ落とされて、住宅地の環境をつくっています。その住宅に合わせてブライバシーは形づくられてきました。自分たちは小さくても出窓を設けるなどして、外とかかりをもたせようと思いました。こうしたことが建て主に苦にならない範囲でできれば、周辺にもよい影響が与えられるのではないかと意識でやっています。

河内 まわりとの関係や見え方を考えたときに、この住宅を敷地に対して斜めに振って配置したらどうだろう、と勝手に想像していました。たとえば今は、デッキに出て隣の家と正対していますし、道路にも正面から向き合っていますよね。これをもし斜めにしていたら、奥行きが変わってよりおもしろく感じたかもしれません。幹也 そうかもしれないですね。

## 奥行きの変化で空間が伸縮する

河内 中庭に対する窓のあけ方はすごく工夫されていますよね。玄関からの視線は直線でズバツと見えますが、クランクするように中庭が入るところでは、外から向かいの部屋の奥までは見えない。なんとなく中庭と室内はつながっているけれど、両端は直接はつながらないという巧みなコントロールがあります。窓のあけ方にルールはありますか。

幹也 基本的に、中庭を介して向こうの隙間が見えるようにしています。視線を止めるのではなくて、向こうの壁や窓を含めて距離や奥行きを感じることで、空間が伸縮するということか、距離の意識が変わるのではないかと思います。さらに何層かにわたって部屋が見えるところは、意識の変化がより起こるのではないかと考えて、開口



Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part 2



Conversation  
+  
Case Study

“Tsuzuri  
house”

玄関付近から中庭を通して部屋3、デッキ、そして隣家へと視線が続く。L字型の壁によって取り分けられた中庭は奥行きを生む。

部を設けています。

茶織 向かい合わせになる部屋の窓同士は、一直線上に並ばないようになっています。

河内 一般的な住宅での、隣家との関係のようですね。斜め前であれば見えてもいいと。

幹也 ロフトから見下ろすと、中庭が裏路地のように見えてきます。また、部屋から直接中庭に入入りする掃出し窓は基本的に設けていません。パーベキューのような活動をするのではないということもありましたが、中庭と室内の出入りが簡単にできると、やはり空間の優位性が出てくるからです。

河内 平面図を見ていて、どの窓も床から天井までのフルハイットだろうと勝手に想像していました。建物を見るまでは視線の抜けがもつとあると想像していたのですが、実際には窓がずれていたりして見通せないところが多くありました。たとえば、子どものための「部屋3」から主寝室の「部屋1」を見たときには、窓の高さの違いで部屋の奥まで見通せません。

茶織 そうですね。3つの部屋では、天井高も仕上げも基本的には変えていません。そのなかで、平面的なプロポーションの違いと、窓と壁の関係で、いろんなところに移動するような感覚が生まれるといいなと思いました。

幹也 周辺との関係でも、窓を通して周辺環境を意識することで、自分の位置がわかるようにしたいと考えました。

河内 そうした窓のあけ方や、場所ごとに景色を変化させるようにコントロールしていることが、居心地のよさにつながると思います。茶織 このように操作できたのは、ある程度の空気を周辺にとり、方位を意識せず平等に考えられたからです。

河内 全方位に対応できるものをつくることや、正方形のボリュームを置くということはよく理解できます。この建物はどの敷地にもあっていってもよい風景が見えてくるはずで、植木さんたちはもちろん1軒ごとに考えて住宅をつくられていると思いますが、この住宅ではほかの土地でも成立する枠組みをつくった、というイメージですね。

幹也 確かに、住宅を計画するときには、ある程度自立した形

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box



Part 2

Conversation  
+  
Case Study

“Tsuzuri  
house”

写真右/水まわりの部屋4もほかの居室と等価となるよう広く確保。一段下げられた天井の上には屋上バルコニーを設け、ハイサイドライトを設置。



写真左/中庭から見上げると、L字型がよく把握できる。ひとつの建物にある中庭というよりは、家々が連なる地区の路地にいるような感覚になる。



# 「綴の家」



建築概要	
所在地	群馬県前橋市
主要用途	専用住宅
家族構成	夫婦+子ども2人
設計	植木幹也+植木茶織/スタジオシナプス
構造設計	林貞夫/前橋工科大学
施工	安松託建
構造	木造在来工法
階数	地上1階
敷地面積	324.77㎡
建築面積	108.95㎡
延床面積	108.95㎡
設計期間	2010年1月~11月
施工期間	2010年12月~2011年6月
おもな外部仕上げ	
屋根	FRP防水 ガルバリウム鋼板立てハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板スバンドレル縦張り
中庭	スギ板t=12mm+桐油+ベンガラ
開口部	アルミサッシ スチール製作サッシ
外構	砂利敷き 土間コンクリート金ゴテ
デッキ	レッドシダーt=38mm コンクリート平板敷き
おもな内部仕上げ	
部屋1・2・3	
床	チークフローリングt=15mm 荏油 桐油+蜜蝋ワックス
壁	PB t=12.5mm+コバウ+フェザーフィール
天井	PB t=9.5mm+コバウ+フェザーフィール
部屋4	
床	50mm角タイル
壁	FRP防水+トップコート仕上げ PB t=12.5mm+コバウ+フェザーフィール
天井	FRP防水+トップコート仕上げ PB t=9.5mm+コバウ+フェザーフィール

式があったほうがいいという意識はあります。別の敷地であれば、窓のあけ方は変わるでしょうけれど。

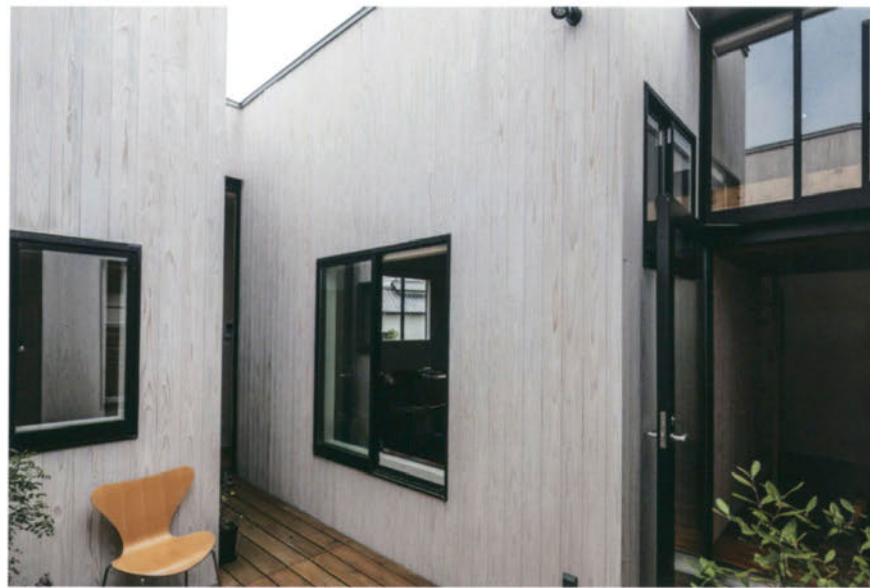
河内 そうでしようね。そして、先ほど「伸縮する」という言葉が出てきて、興味深く感じました。自分も今、奥行きの変化や伸縮する空間にとっても興味があるので。

幹也 イメージの世界ですが、歩いているときに突然横に広がるように感じるなど、普段感じている空間の奥行きとは違うように感じられるときがあります。「綴の家」では、玄関から子どもたちがいる「部屋3」を見ると、意識が子ども室に飛んでいくような感覚があります。こちら側とあちら側での意識のやりとりが頻繁に起こることで、意識のなかで空間が伸縮するようなことが起こるのではないのでしょうか。

河内 「綴の家」で強く感じたのは、奥行きを感じ方の変化ですね。10m角ほどの外形の中で、さまざまな風景が重なり、奥行きがつけられていく。それをどう意図的につくるかは、設計手法のテーマのひとつになると思います。

中庭を介して  
視線を止めることなく  
距離や奥行きを感じることで  
意識が変わる。

写真下/中庭から見て、右から順に隙間1、部屋2、玄関、部屋1の開口部。開口部の大きさや位置は、部屋同士の関係によって変えられた。



Ueki Mikiya

Ueki Saori

## 植木幹也

1966年群馬県生まれ。90年東京理科大学理工学部経営工学科卒業。94年前橋市立工業短期大学建設工業科卒業。93~2000年松井淳+ジオデザイン、2000年スタジオシナプス設立。08年より前橋工科大学非常勤講師。2000年第7回空間デザインコンペティション作品例部門銅賞（前橋工科大学 松井淳と共同）。

## 植木茶織

1976年群馬県生まれ。96年前橋市立工業短期大学建築学科卒業。2004年前橋工科大学工学部建築学科卒業。07年よりスタジオシナプス共同主宰。09年より前橋工科大学非常勤講師。

おもな作品 = 「夜ノ森の家」(08)、「屋根下の家」(08)、「織の家」(09)、「組の家」(10)、「編の家」(10)など。

話し手 河内一泰

まとめ/加藤 純 写真/川辺明伸

2組の  
建築家が  
語り合う  
お互いの  
仕事

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box



Conversation  
+  
Case Study

“HOUSE y”

2階のリビング2から  
ダイニングキッチン2、  
寝室2を見る。明るい  
外から室内に入るにつ  
れて徐々に暗くなるよ  
うに、床・壁・天井の  
仕上げの明度をコント  
ロール。こうすること  
で、外部や街と連続さ  
せることが意図された。  
(写真/河内一泰)

# の連続を生む

# 平面の発想から

ケーススタディその1

「綴の家」

設計/植木幹也+植木茶織

ケーススタディその2

「HOUSE y」

設計/河内一泰



Ueki Mikiya & Ueki Saori



聞き手

植木幹也  
植木茶織



ケーススタディ

その2

「HOUSE y」

# 明度の差で内外

— それでは今度は、河内さんの設計された「HOUSE y」の計画について、河内さんに解説をお願いします。

河内 同じ敷地内での建て替えで、以前と同じ規模の住宅を要望されました。彫刻家の親子の一世帯が入る住宅で、1階の子世帯、2階の親世帯のそれぞれにアトリエをもちます。以前の家は真ん中の部屋に日光が入らず真っ暗で、明るい家がほしいと言われました。それで室内の明るさのことを考えたわけですが、もともと日本の昔の住宅は基本的に暗く、寺院などは明るい庭からの光を受けて仏像の背景がほのかに照らされるという程度でした。そのぶん室内では外への意識が強く、外との距離も近く感じます。方、現代の住宅では室内が極端に白くされ、外には建て込んだ家同士の暗い隙間があるという逆転現象が生まれています。この家では、外と強い関係をもたせるためにも明暗の両方がほしいと思います、暗いインテリアを目指しました。また、アトリエを前面の道に面して開くことで、街が連続するような住宅にしたいと考えていました。

計画では、建物の中に必要な部屋を配置し、南北に抜ける3列のボイドを設けています。室内の明度は真ん中が一番暗く、最大に明るい外部とのあいだで明度が連続するように考えました。明度に着目すると、



## 話し手

### 河内一泰

Kochi Kazuyasu

1階2.9m、2階3.3m、  
階高の違いがわかる  
箱型2世帯住宅  
「HOUSE y」の前で。

建築が2次元に感じられる空間にすることを考えています。たとえば、いくつかの風景が重なって見える状況があるときに、立面図に近いイメージでとらえられるといい。天井高が床の幅よりも高くなると、人間は空間を立面で感じるようになります。これが逆だと床で空間を感じ、平面で理解する。ヨーロッパの教会のように縦に長い空間は、立面で見ているのですね。この住宅でも天井高を高くすれば奥行きが縮まるような気がして、できるだけ天井高を大きくしています。1階は2・9mで、2階は3・3m。2階のほうが立面が強く感じられますね。1階はスチールサッシの製作寸法の限界から、それほど高くはできなかったのですが。

河内 見える風景は、いくつもあつたほうがよいということですね。豊かな空間は何かと紐解くと、情報量が多いことに集約されると思います。ひとつの場所から見えるものは、重なれば重なるほどいい。ただし住宅では、浴室やトイレ、収納など、どうしても閉じないといけない部屋があります。今回はそれらをコアとしてまとめ、ストレートに抜けるスリットを3列に並べてプランを解いています。開口部は、この家では後から調整する意識がなかったもので、フルハイトにしています。

幹也 表の通りから居室がのぞかれることは、気にされなかったのでしょうか。

河内 昼間は窓をあけていても、意外に室内は見えないものです。外からは室内のシルエットしか見え、動かなかつたら人か物かわからないほどです。距離感があるということを自覚することで得られる外とのつながり方もありますよね。完全に閉じてしまうとインテリアだけの関係性になってしまいますから、それは避けたいと思っています。

幹也 そうですね。計画の背景や経緯をここまで把握していなかったので興味深く聞いたのですが、設計の手がかりは彫刻の背景ということでしょうか。

河内 基本的にはそうです。外に開く建築のために、明度のグラデーションをつくったということです。

幹也 外と連続的につなげるという目的のために、光を抽出したということでしたね。開口部で、通風と採光を一体とすることはあえ

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box



Conversation  
+  
Case Study

“HOUSE y”

を塗ると暗くなってしまいうので、浸透しない水性クリアで明るくしました。サッシやシステムキッチン、また外壁のガルバリウム鋼板では既製品のシルバーを使っています。自分としては、いい光の空間ができたと思います。

もうひとつ、伸縮する空間という話が出てきましたが、3次元の

# 「HOUSE y」 平面図

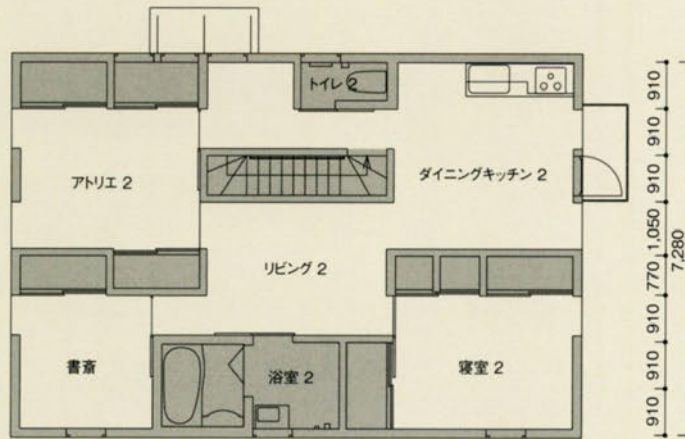
0 1 2m

1/150

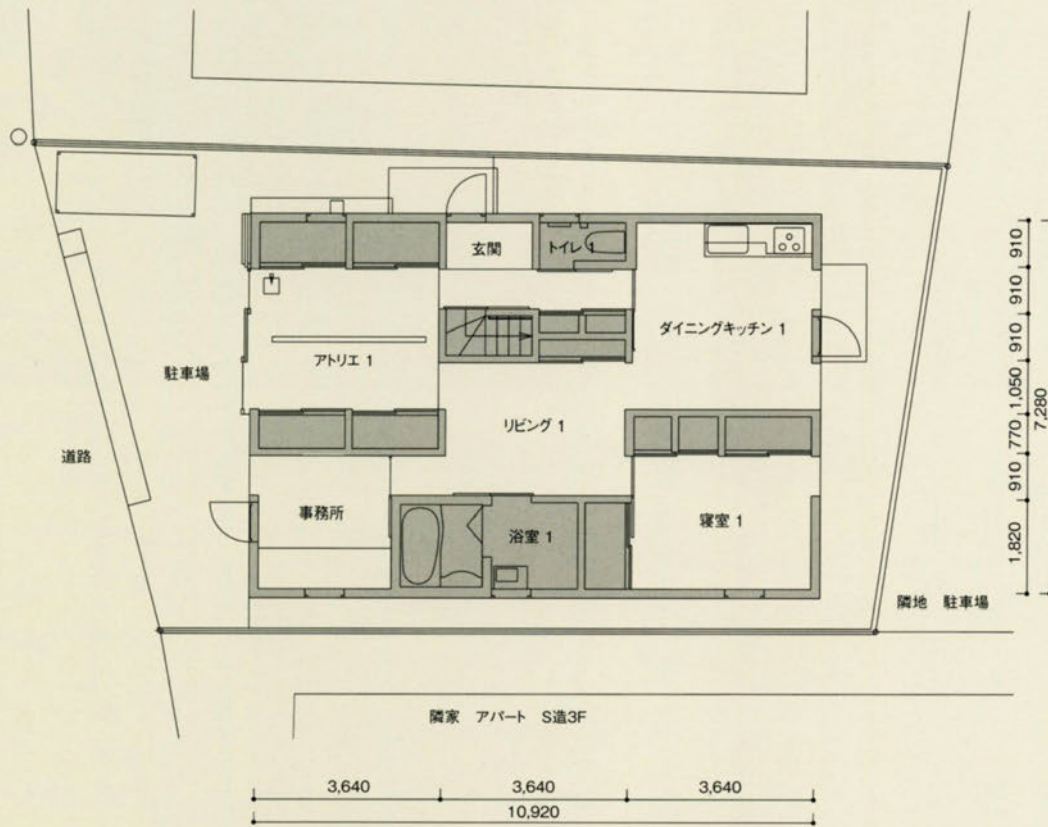


1階と2階は6畳ほどの部屋が並ぶ、ほぼ同じプラン。このなかに南北の開口部を結ぶように3列の抜け（ポイド）が設けられている。

2F



1F



室内の明度は真ん中が一番暗く、明るい外部まで明度が連続していく。

て避けたのですか。

河内 防火戸にする必要があったのですが、既製サッシの高さは2・4mまででした。開口部はできるだけすっきりとさせたかったので、中棧は入れずにFIX窓としました。ただ室内の通気は十分にとれるよう、収納の中の高い位置に換気窓を設けています。

## 街とつなげるための操作

幹也 訪れる前に平面図と写真を拝見していたのですが、光のグラデーションの状態を体験できてよかったです。室内に入って最初に感じたのが、街のスケールに近いということです。住宅のスケールから離れて、街に近づいているのかなと。天井高は奥行きを感じ方のなかで話されていましたが、街と連続させる意図でも利用されたのですか。

河内 言われるまで気づきませんでした。内と外の連続性をつくりたいというとき、室内にいても外にあるような高さを設定するといいでしょね。連続性ということでは、1階の床面を地面に近づけて、道路からバリアなくつながるようにしています。45cmほど上がっていると、中と外という感覚が出てきますので。それで、室内でもコンクリート基礎の立ち上がりが見えています。

茶織 1階と2階とは、街とのつながり方が違いますよね。それでも1階と2階でプランが同じなのはどうしてでしょうか。

河内 本当は外から1階、2階へとつながるべきですが、2世帯住宅のそれぞれの世帯は得てして交わらないものなので、連続させたプランは考えませんでした。またコストの問題もあって、それぞれの要望を聞いて対応している余裕がなかったのですね。そこで思い切ってシンプルに単純化し、同じプランにしたのです。

幹也 階高の違いが生まれたのは、光量以外にどのような要因がありますか。

河内 スチールサッシの製作寸法範囲とコストです。天井高を4mにすることは現実的でないことがわかり、上下階を同じ3mにするのか、片方だけでも高くするのかと考えました。実験の意味合いもあり、方だけでも高くつくりたかったということです。

茶織 街とつながるといことは、体験として起こることであります。これまでの話では、おもに内側から街に開いていくことだったと思いますが、外から見て開かれた印象にするために、何かされ



左/この事務所やアトリエは、玄関を通らずに外から直接出入りができる。ふたつの部屋の床仕上げはモルタル金ゴテ押さえによる。



ましたか。

河内 表通りから家の反対側の庭が見えるようにすると、近しくなるだろうと考えました。それで、アトリエのスチールサッシのガラスは透明にしました。実際には、人通りが視界に入って作業に集中できないというので、ガラスに半透明のフィルムを張ったのですが、幹也 建て主の暮らし方も開き方に影響しますが、こちらの建て主は、街に生活しているという意識が強いのでしょうか。

河内 ええ、強いと思います。街なかのカフェでも、知らない人が歩く様子を見ながらお茶を飲むのは楽しいものです。生活を楽しむためにも、街に開いているのはいいことだと思いますし、住宅は街に開くことができる設定しておく必要があると思います。

幹也 建築側で用意しておかないと、何も始まりませんからね。積極的に開いて仕掛けていくことは大事だと自分も思います。

河内 昔の町家では、パブリックなスペースほど道に近く、プライベートを奥にしていた。今の都市型の住宅では1階が駐車スペースと個室に水まわり、上階にキッチン、リビングという構成で、プライベートとパブリックの配置が逆になっています。これでは、道を歩いていても距離感があって楽しくありません。自分が師事した難波和彦さんが設計する「箱の家」では、1階にキッチンをつくっていました。基本的にワンルームの中で、食事をする客はキッチンやダイニングに招き、上を寝る場所にするという序列でした。

幹也 「HOUSE y」では南北の軸でパブリックからプライベートへの序列をつけているのでしょうか。明るさは真ん中の部屋で最も暗くなりますから、明暗とパブリック/プライベートとの対応は気になりました。

河内 この家では、そこまでは対応させていませんね。ただ、道路側をパブリックととらえれば、ある程度序列をつけてプライベートへと移行しています。

## 抜けを直線状に通し 奥行きを感じる





Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part **2**



Conversation  
+  
Case Study

“HOUSE y”

北側の前面道路からの  
外観。日中は南北のフル  
ハイトの開口部を通して  
南側の外まで見えるが、  
室内の様子はほとんど  
わからない。外壁はガル  
バリウム鋼板の角波板  
張り、1階アトリエの  
引き戸は特注のスチ  
ールサッシ。

茶織 ボイドという形で光をとり、スリットのようにフルハイトの開口部を設けたというルールはよくわかります。ただ、外観では開口部によって箱の印象がくずれる可能性もありますよね。開口部を設けると、外側のルールは何か設定されましたか。

河内 壁面に対して窓をあけるといよりは、倉庫のような箱から3列のボイドを抜き取るようなイメージだったので、FIXのスチールサッシの押し縁はガルバリウム鋼板でカバーして隠し、箱の印象を残しました。

茶織 明度のコントロールを考えると、開口部のまわりでは外壁側に軒や庇でもう1層つくられたのでは、ないかと思いましたが、いかがですか。

河内 建ぺい率や容積率から建物のボリュームとしてはギリギリを確保したので、軒先をつくれませんでした。総2階の箱のボリュームから計画を始めただからでもあります。

幹也 この家は、別の土地にあっても成立するでしょうか。3列のボイドは、光という抽象的なものからつくられたもので、街のコンテキストからではありませんよね。

河内 そうですね。どこに置いても成立する住宅にしたいと思えますし、そのなかで、街と連続する形式を提案したいと考えています。

幹也 提案の枠組みを考えると、箱は扱いやすいのでしょうか。河内 そうですね……。箱という形について本来はもつと考えるべきなのでは、箱からスタートする設計のメリットは、どこにでも置けるということ。また、大きな建築にも発展しやすいと思います。

幹也 スケールにとらわれず、展開しやすいということですね。ところで収納や階段の納まる部分は、柱が太くなったというイメージでしょうか。



写真左/1階リビングから事務所を通して前面道路を見る。フルハイトのFIXガラスは明かりをとり視線を外部とつなげるもので、脇の開き戸は出入り口。

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box



Conversation  
+  
Case Study

“HOUSE y”

河内 実際はそうですね。小さな部屋の連続で、動かないと見えなところがあります。

幹也 この家はとくに、動かないと見えてきませんね。そして外の見え方が、ここまで空間が伸縮する感覚に影響するとは思っていませんでした。自分は最初、プランをあえて上下階で同じにしたのは、部屋の壁面の量やボリュームが同じになり、明暗の差がハッキリすることをねらっているからだと思っていました。ところが実際には、外に抜ける感覚のほうが強く感じました。これは、真ん中のリビングの大きさも関係しているのでしょう。もう少し大きかったら、抜けはたぶん意識に上らないはず

### パブリックは道に近く プライベートは奥に。 昔の町家の造りを 取り入れて。

です。

河内 部屋の大きさにヒエラルキーをつくりたくなかったというのは、「綴の家」と同じだと思います。後は経済性からいうと、すべて6畳ほどにするスパンは合理的です。そこに開口部を設けて、抜けを直線状に通しました。その理由のひとつは、やはり奥行きを近くに見せたいということ。静岡の御殿場に向かう途中で、両側に家が立つ街並みで富士山がスパンと見える道があるのですが、そこでは山がとても大きく感じられるんですね。この住宅では最初、開口部の位置をずらしたパターンも試しましたが、スパンと見え

るといのは大きな効果があるなど実感して直線に通しました。

幹也 自分の居場所によって光の関係も含めた外との距離が変わりますし、伸縮するという感覚もあって、この家は箱型でありながら、実際はかなり複雑ですね。

茶織 窓を壁に切り取るようにあけて、外を見なさいと規定することとはまるで違いますね。スケールのコントロールも含めて、この住宅のような街とのつながりがあるのだなど新鮮な体験をしました。

# 「HOUSE y」



建築概要	
所在地	東京都中野区
主要用途	住宅+アトリエ
家族構成	2世帯
設計	河内一泰 / 河内建築設計事務所
構造設計	MID研究所
施工	中野工務店
構造	木造在来工法
階数	地上2階
敷地面積	147.55㎡
建築面積	79.49㎡
延床面積	160.57㎡
設計期間	2010年6月～2011年5月
施工期間	2011年5月～2011年10月

## おもな外部仕上げ

屋根	ガルバリウム鋼板立てハゼ葺き t=0.4mm 素地
外壁	ガルバリウム鋼板 角波板張り w=800mm t=0.4mm 素地
開口部	アルミサッシ 製作スチール引き戸
外構	コンクリートはけ引き

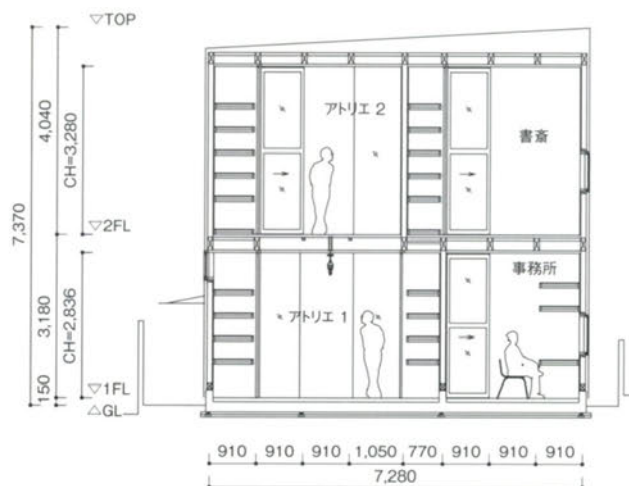
## おもな内部仕上げ

リビング ダイニングキッチン	
ベッドルーム 浴室 アトリエ2 書斎	
床	フレキシブルボード(t=6mm UC)
壁	PB t=12.5mm ビニルクロス、一部遮音シート張り
天井	PB t=9.5mm ビニルクロス
アトリエ1 事務所	
床	モルタル金ゴテ押さえ
壁	PB t=12.5mm ビニルクロス
天井	PB t=9.5mm ビニルクロス

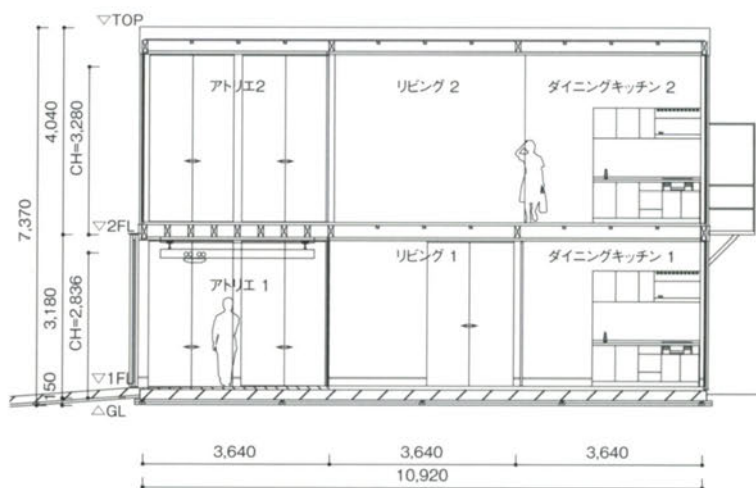
## 断面図

0 1 2m

1/150



正面



側面



Koichi Kazuyasu

## 河内一泰

1973年千葉県生まれ。98年東京藝術大学美術学部建築科卒業。2000年同大学大学院修士課程修了。2000～03年難波和彦+界工作舎、03年河内建築設計事務所設立。現在、芝浦工業大学、日本大学、東海大学非常勤講師。おもな作品＝「書家のアトリエ」(04)、「HOUSE kn」(06/AR Awards 2009 SHORTLISTED)、「KCH」(09)、「庭の家」(09)、「HOUSE n」(10)、「アマダハウス」(11/中部建築賞入選)など。

### point 1 暗い建築と明るい建築

昔の日本の住宅内部は暗く、庭は明度が高くきれいに見える。現代の住宅は白く明るいインテリアが多い。



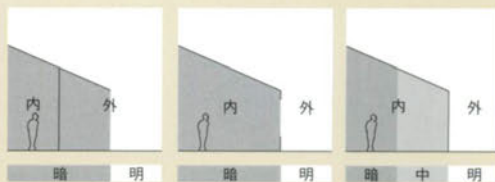
蕉雨園



「HOUSE kb」(06/設計:河内一泰) 写真上2点/河内一泰

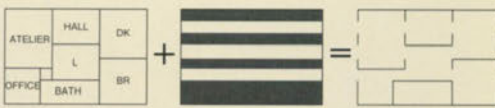
### point 2 内と外の連続性

濡れ縁では明度の境界は軒先にあり、内と外の境界がオーバーラップして連続性が生まれている。



### point 3 明度のグラデーション

建物ボリュームの中に必要な部屋を配置し、南北に抜ける3列のポイドをあけて光を奥まで届かせる。



4m×4mの正方形平面をもつ2階ダイニングルーム。右手は幅2m×高さ3mの巨大なドアで、開けた瞬間、光と風が抜けていく。左手は同じサイズのはめ殺しガラス。

2組の  
建築家が  
語り合う  
お互いの  
仕事

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part 3



Conversation  
+  
Case Study

“Small  
House”

# 4m×4mを積み上げて

ケーススタディ

その1

「Small House」

# 断面からの発想

ケーススタディその1

「Small House」

設計/畝森泰行



ケーススタディその2

「トシゴヤ」

設計/根津武彦



Nez Takehiko



聞き手

根津武彦

# 多様な天井高を 螺旋階段が貫く

畝森泰行 「Small House」の敷地は10坪で、まわりはすぐく建物が集まっています。空襲を免れたところだから、小さい土地や道が残されているんですね。ふつうに考えると、建物の広さを大きくとって、敷地いっぱい建てますから、斜線制限によって、6mくらいの高さにしかなれません。するとせいぜい3階建てだし、ひとつの階には中途半端な大きさの部屋が並ぶので、風通しもよくない。

全然違う解答を探したときに、天空率を発見しました。道路斜線で決まる建物よりも、道路側により多く光を落とすならば、もっと高くしてよいという法規です。平面的な広さは捨て、天空率により高さを約9mまで上げました。

4m×4mという正方形のワンフロアを単純に積層して、地下1階・地上3・5階の建物にしています。駐車場の必要もあって、ほぼ土地の中央に建てた。まわりに空地ができるので、室内だけでなく、隣接しているまわりの建物にも、光や風を届けることができます。大きい扉はその空地に向けて開いているわけです。

お施主さんは、ジープ・チェロキーという大型の車をおもちです。その車を好きな理由は、四角くてカチツとした、最大容積をもっていて、そこを使いきっているからだそうで、その感覚にすごく共感しました。

根津武彦 鉄骨造にしたのは、天空率を使うと決めた後なんです。畝森 そうですね、ポリウムが先にありました。RC造は重苦しい感じがして、あの場所には直感的にそぐわないと思ったし、木造は3階建て以上は法的にきびしい。なるべくシンプルにつくって、窮屈さを生まないことにつながればと考えましたね。

4m×4mというのは、螺旋階段がほとんど4分の1を占めますから、かなり勇気のいる寸法なんです。原寸でいろいろとスタディしました。ただ、以前の自宅兼事務所がそのくらいの広さで、そこで「Small House」だけを考えていたので(笑)、大丈夫じゃないかと



## 話し手

畝森泰行

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part  
**3**



Conversation  
+  
Case Study

“Small  
House”

Unemori Hiroyuki

天空率を採用することにより、  
高さを約9mまで上げた  
「Small House」の  
エントランス前に立つ。

畝森 確かに、間仕切りのない、大きなワ  
ンルームですから、お施主さんも勇気が必  
要だったのかもしれないです。でも、そも  
そもあの土地を買って、あそこに家族3人  
で住むんだという勇気のほうが、僕のなか  
では大きかった。それでもあの街に住むと  
いう気持ち、なんとか形にできたのかな  
あとと思います。

2方向に開口があって、とても快適だったんです。  
根津 各フロアの高さ、3mとか1・7mというのは、どうやって  
決めたんですか。  
畝森 天空率で全体の高さはほぼ決まります。地階は地下扱いにす  
る高さ、1階はエントランスに人が立ったときの高さがあるので、  
2階の床までの高さも必然的に決まる。2階のダイニングルームは  
ちょっと暗くなりそうで、道路側は北を向いていて、南面は間近に  
建物があるものですから、3階スペアルームの高さを抑えてでも、  
2階の天井を高くしたかった。ですから、あの建物の中で唯一、僕  
の感覚的なもので決めたのは、ダイニングルームの天井高とスペア  
ルームのギリギリの高さだったと思います。

## 極限に薄い床が 空間を切り分ける

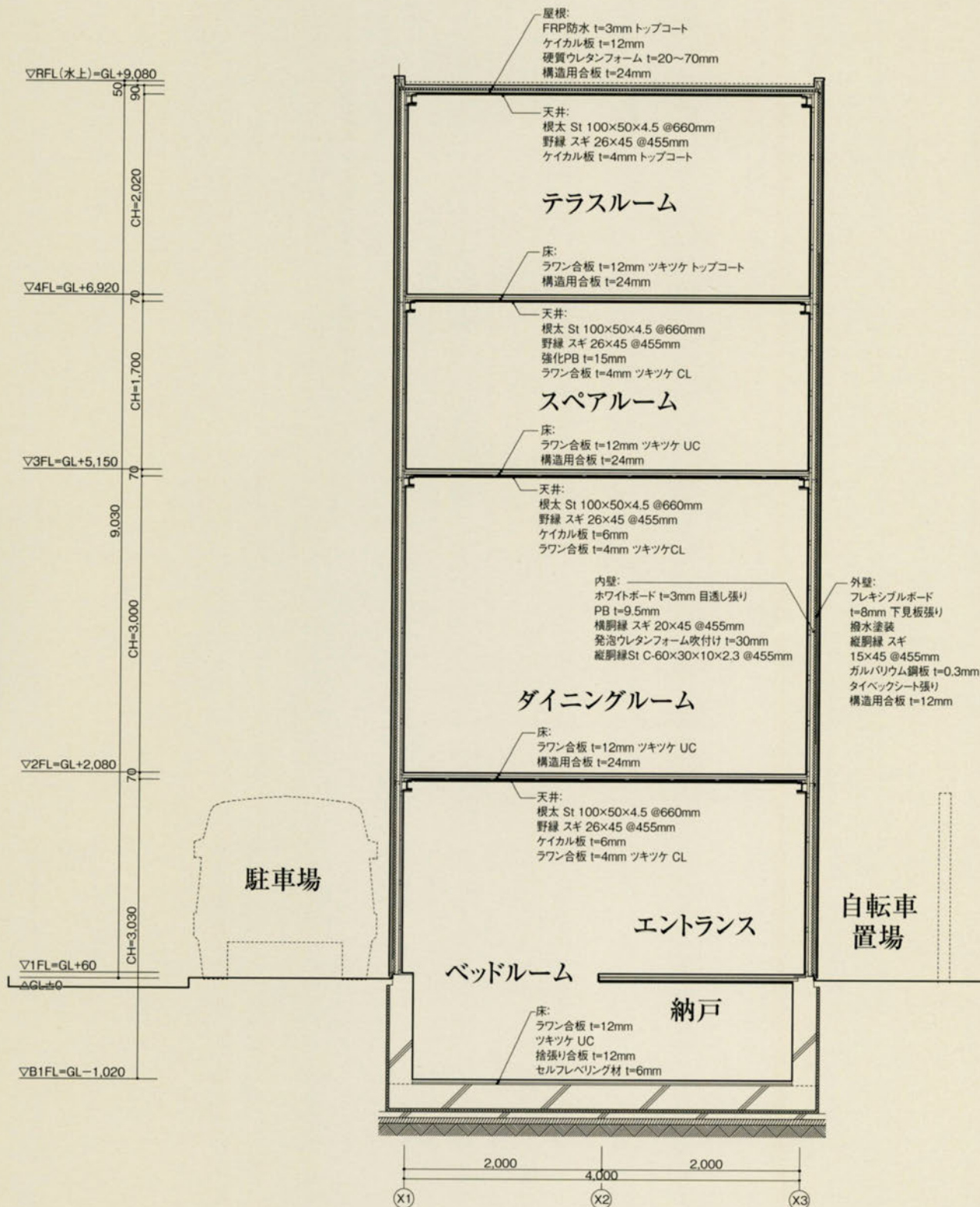
畝森 もうひとつ重要なのが床の厚さで、各床の総厚で70mmに抑え  
ています。各階の用途を積層させていくと、どうしてもそれぞれが  
分離してしまうと思ったので、なるべく薄くして 体感もてるよ  
うに考えました。ここの構造は、柱梁を現しにしていますが、じつ  
は柱の外側にフラットバーを溶接したブレースがあります。外壁側  
で剛性をとれたので、床を薄くできました。床は、角パイプの10  
0mm×50mmを横使いにして、そこに合板を落とし込んだ混構造にし  
ています。

—— 建築はある寸法の限界を超えると、突然違うものに見えてきま  
すが、この床の薄さにもそれを感じました。

# 「Small House」断面図

0 0.5 1m

1/60



床厚は70mm、  
なるべく薄く、  
縦に 体感を。

根津 螺旋階段のところ合板の小口が見えるわけですが、家具の天板の厚さと、床の厚さが同じように見えてくるんですね。今まで、家具と建築として分けて考えていたものが、つながってくるような不思議な感じがしました。

## 一瞬で外部を取り込む 巨大なドア

畝森 それから、平面が小さいことによる快適さというのがあるって、それは外部に近いことです。人間的なスケールを超えた窓を開けると、この小ささを 気に広げられるんじゃないか。だから、大きな窓を開くと、建物全部が屋外になるような状態を目指しました。壁にトリミングするように小さく窓をあけるのは、自分で屋外環境のサイズを決めているような気がするんですね。抽象的な話ですが、光や風は無制限なものはずだから、自分で窓の形、つまり環境のサイズを決めてしまうのがいやで、柱と梁の中を全部窓にして、それがドアだったり、はめ殺しのガラスだったりする、そういう原理的な建物を考えました。

——2m幅のドアを少し開けると、光や風の変化が劇的ですね。

畝森 僕は岡山の田舎にある古い家で育ちました。隙間風は入ってくるし、気密性はよくない家でしたが、ちよつと開けただけでパツと外とつながるといふ、田舎特有の外との連続といふのは、僕の間では原風景としてあります。こういう街のなかでも、同じことを起こす方法があるんじゃないかと思っていました。窓と窓が接するくらいに密集しているところで、人が呼吸するのと同じように、建物が呼吸するような仕草が起る。ドアの面積が大きくて、かつ部屋は小さいので、上から下まで風が 気に抜けていくことは、ある程度、予想をしていました。

根津 螺旋階段のところから上下に抜けるのは、すごい効果だと感



外壁はフレキシブルボードの下見板張りで、ダイニングルームのドアも同じ仕上げ。コーナーは30mm×30mmのアンクル材で見切っている。内部には着脱可能な落下防止パネルがある。

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part  
3



Conversation  
+  
Case Study

“Small  
House”

## 寸法と配置だけで つくる都市住宅

じましたね。

——外壁を下見板張りにした理由はいかがですか。

畝森 街なかに建つので、既製品をバインと張るのがいいと思ったのと、4mの真ん中、2mで分けているので、2枚で外壁が張れちゃう(笑)。この建築の小ささを表す意味もありました。フレキシブルボードの下見板張りにしたのは、防水上のメリットとともに、石とか木板とか、いろんな見え方をするあいまいさがいいなあと。多少の色ムラが出ますが、それもいいと思いました。1枚1枚の濃淡を見て、図面に描いて指示しています。

——構造のディテールについて聞かせてください。

畝森 ちよつとマニアックなことばかりで(笑)。ただ、僕は構造にすごく興味があって、構造は建物を建物たらしめているし、構造が人の行動や環境を規定すると思ってるんです。「Small House」では、構造家のアラン・バーデンさんとかかなり濃密に、やりとりをしています。先ほど言ったブレースも、通常の構造の考え方では、芯からずらすのはよくないんですが、粘り強く設計してもらいました。また、それを空中で維持しながら現場溶接するのはすごく難しい。工務店の力量にも支えられています。

根津 すごくパワフルに細部までつくられていて、さまざまな判断が建物にしっかりと表れているという印象を受けました。街や建物に対するあり方は、僕の意識と共有感覚があるけれど、表現としては違う。僕は人を受け入れるのにこちらから手を差し伸べるけれど、畝森さんは根本(こんぽん)だけをしかりつくり込んで、後はお施主さんの使いたいようにという潔さがある。拝見すると、お施主さんはそれを使いこなしていますね。

畝森 ここでは、複雑なことはほとんどやってないんです。単純に床があって、それを螺旋階段でつなぐ。「Small House」は、極端にいうと寸法と配置だけで建物をつくっています。それが、小さい」ということと「都市住宅」ということに対するひとつの解答なのかと考えています。



写真右／3階スペア  
ルームの天井高は1.7m。  
お子さんがつかまっ  
ているロッド材は、屋根  
の梁から3階と4階の  
床を吊っている。



ワンフロア4m×4m、  
そのほとんど4分の1を  
螺旋階段が占める。

各床の総厚は70mmとい  
う薄さ。螺旋階段を上  
り下りすると、部屋と  
部屋の「近さ」を実感  
する。左手の収納家具  
はお施主さんの製作。



下右／エントランス。  
引き違いのガラス戸が  
街に面している。中／  
エントランスから階段  
を少し上がると、2階  
ダイニングルームへと  
視線が切り替わる。左  
／地階ベッドルームを  
見下ろす。中央の柱は  
2階の床を支えている。

水まわりも  
ガラス張りの  
ほぼワンルーム空間。

写真上／浴室からテラ  
スルームを見る。建物  
の対角線上に設けられ  
た開口部。





## 「Small House」

建築概要	
所在地	東京都
主要用途	専用住宅
家族構成	夫婦+子ども1人
設計	畝森泰行/ 畝森泰行建築設計事務所
構造設計	アラン パーデン/ ストラクチャード エンヴァイロメント
施工	泰進建設
構造	鉄骨造
階数	地下1階、地上3階
敷地面積	34.27㎡
建築面積	17.47㎡
延床面積	67.34㎡
設計期間	2009年7月~2010年2月
施工期間	2010年3月~8月
おもな外部仕上げ	
屋根	FRP防水 t=3mm トップコート
壁	フレキシブルボード t=8mm 下見板張り 撥水塗装
開口部	アルミサッシ スチールドア
外構	砂利敷き
おもな内部仕上げ	
ダイニングルーム	スベアルーム
床	ラワン合板 t=12mm ツキツケ UC
壁	ホワイトボード t=3mm 目透し張り
天井	ラワン合板 t=4mm ツキツケ CL
ベッドルーム	
床	ラワン合板 t=12mm ツキツケ UC
壁	ホワイトボード t=3mm 目透し張り コンクリート打放し UP
天井	ラワン合板 t=4mm ツキツケ CL
テラスルーム	
床	ラワン合板 t=12mm ツキツケ トップコート FRP防水 t=3mm トップコート
壁	ホワイトボード t=3mm 目透し張り FRP防水 t=3mm トップコート
天井	ケイカル板 t=4mm トップコート



Unenori Hiroynuki

### 畝森泰行

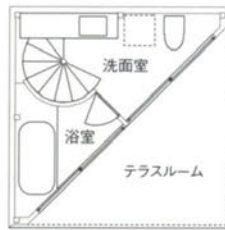
1979年岡山県生まれ。99年米子工業高等専門学校建築学科卒業。2002年横浜国立大学工学部建設学科卒業。02~09年西沢大良建築設計事務所。05年横浜国立大学大学院修士課程修了。09年畝森泰行建築設計事務所設立。12年より横浜国立大学大学院Y-GSA非常勤設計助手。

### 平面図

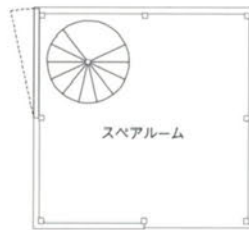
0 1 2m

1/150

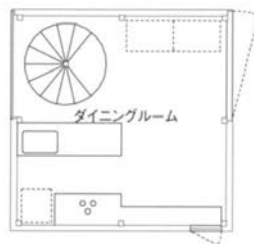
4F



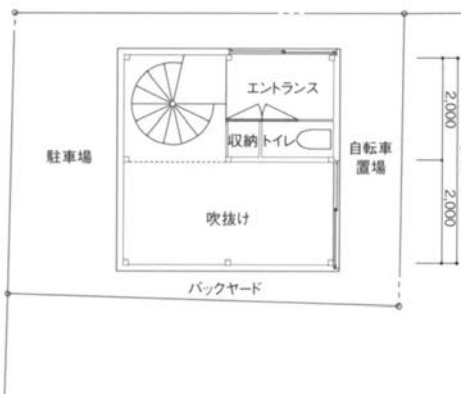
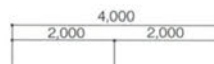
3F



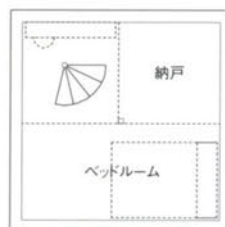
2F



1F



B1F

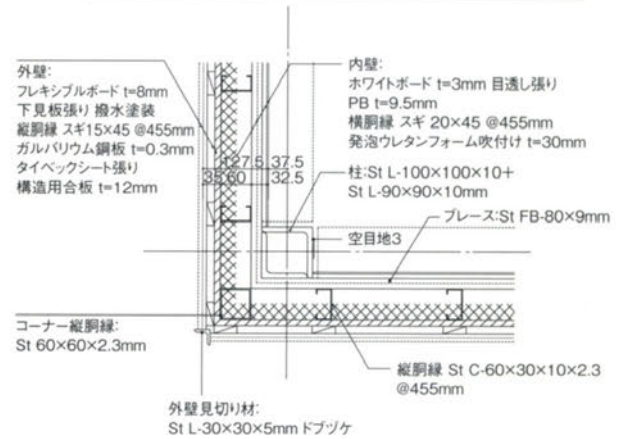


### 詳細図

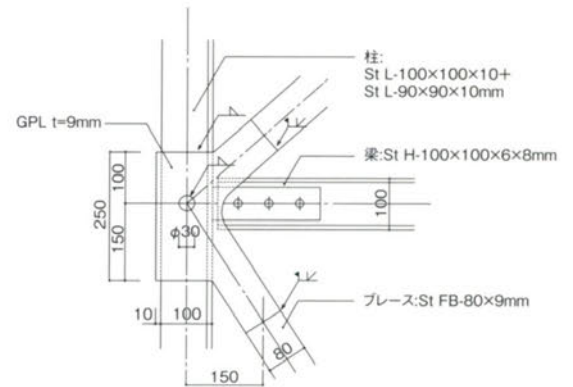
0 10cm

1/15

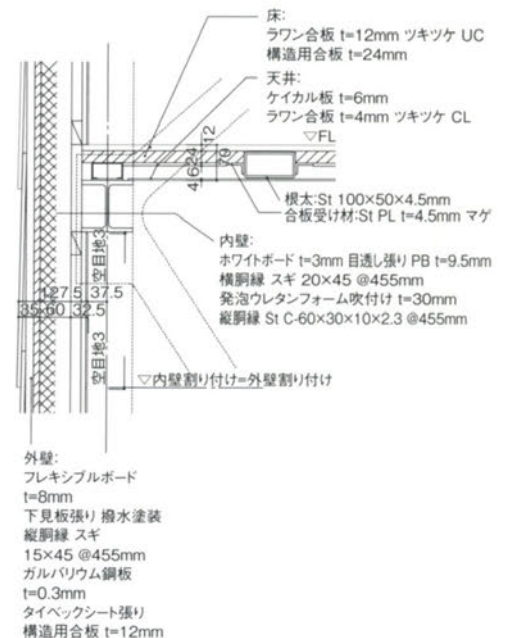
#### 壁面コーナー 平面詳細図



#### ブレース接合部 断面詳細図



#### 床・壁接合部 断面詳細図





話し手 根津武彦

まとめ/豊田正弘 写真/傍島利浩

2組の  
建築家が  
語り合う  
お互いの  
仕事

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part 3



Conversation  
+  
Case Study

“Urban  
Hut”



最上階の個室2は、右  
手のロフトと一体の空  
間になっている。中央  
には階段室があり、ト  
ップライトからの光が  
型板ガラスを通して部  
屋を照らす。

# 断面からの発想

ケーススタディその1

「Small House」

設計/畝森泰行

ケーススタディその2

「トシゴヤ」

設計/根津武彦



# 入れ子を重ねて

ケーススタディ

その2

「トシゴヤ」

Unemori Hiroyuki



聞き手  
畝森泰行



# 最大容積の 木造2階建てをつくる

根津 まず、「トシゴヤ」を建てた経緯からお話をします。僕は専門学校で教えているんですが、その学生から相談を受けて、じつは幼なじみの友だちが家を建てたいので、なんとか協力したいという話でした。学生は卒業を迎えるので、では、僕の事務所のスタッフとして、一緒に設計をしよう。その友だちと彼のお姉さんとふたりがお施主さんでした。この姉弟は小学校の頃にご両親を亡くして、高校のときから、この近所に以前ご両親と住んでいた家があったので、そこにふたりで住んでいました。そこが傷みがひどくて住めなくなったので、かつて祖父母が暮らしていた、今は更地のこの土地に家を建てて、ふたりで生活していきたいというお話でした。

そのとき、お姉さんが20代後半で、弟さんが20代半ばです。ここを建てるのに、お姉さんが高校のときから働いて、コッコツと貯めてきたお金を使いたい。その予算は非常にきびしいものですが、それ以上はできない。彼女たちが要求することは、僕にはなかでしっかりとものをつくっていかないとけない、というのが大前提でした。そこからこのプロジェクトが始まったんですね。

それから敷地を見に行きました。ここは商業地域なので、道路斜線はきついですが、もつと高い建物も建てられます。ただ、2階を超える法規制がきびしくなるし、木造以外は予算に合わないのので、2階建てで最大容積のものを木造でつくろうというのは決定していました。

お施主さんのたくましい生き様というか、彼らがこういう街で生きていく姿が、建物にも感じられるようにしたいというのがスタートです。都会における建物の原形を、なんとか木造でつくりたい。そこでイメージしたのは、段ボールハウスです。最低限のものでつくっているけれども、住んでいる人の息づかいが感じられる。かつそこに、アスファルトを破って生えてくる雑草のようなたくましさがある。だから、あるがままの素材で、「骨と皮」によってつくって



## 話し手

根津武彦

Nez Takehiko

都会の住宅の原形を。  
イメージしたのは  
段ボールハウス。

## 小さなスケール感を積み重ねる

いこうと考えました。

根津 それから、畝森さんからもうかがった、スケール感の話があります。たとえば、部屋に置かれた家具の延長上でつくられるような家。大枠から決めていくというより、小さなスケール感が積み重なっていくところに、都市ならではの住宅の基本があると感じています。

設計していくうえで大きかったのは、ここは防火地域なので、木造2階建てでも準耐火構造が求められたことです。普通、木造で準耐火構造の建物を建てようとすると、柱梁という主要構造部の表面にプラスチックボードを張ることになります。そうなると、構造や骨組みの力強さが隠れてしまう。木造で外壁耐火構造とするには、一般の設計者が使える唯一の工法が、「トシゴヤ」で採用した「アイ耐火」という材料でした。それによって、内装を木材の現しにできたわけです。内部の壁や天井は、通常では両面張りするところを、すべて片面だけに張っています。骨と皮という言葉の方でいくと、部屋のどちらかからは骨の部分

が見えています。

プランに関しては、階段の位置によってそれ以外の部分が決まりますから、なるべく仕切らずに使う。ただ、階を積み重ねるうえで、2階建てにするというルールと、ロフト階にあたる1・4mの天井高というルールとを組み合わせ、いろいろな使い方ができる隙間を生み出そうとしました。

もうひとつ、建物はつくり込めばつくり込むほど、そこに住む人が介入する余地がなくなる、建物と住む人の距離が開いてしまう感じがするんですね。設計者が細かく決めていけば、仕上がりは隙のないものになっていくけれども、もうちょっとゆるくて、人がなじんでいけるものに興味がある。住んでいる人の想像力や思いが建物の中に入っていく余地がつかれないか。とくにそれを感じるのには、リノベーションの仕事をするときです。建築家の予想しない状況が起こった場合、既定路線を超えた新しい可能性が生まれることがあ

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part  
3



Conversation  
+  
Case Study

“Urban  
Hut”



階段

建物の中央を貫く鉄砲階段。ライトウエルとしても機能し、トップライトの光を各部屋に落としている。



リビング

北側の吹抜け部分は、3,624mmの天井高をもつ。近隣建物に囲まれ採光の難しい位置にあるが、吹抜けや階段蹴込みからの光で補っている。

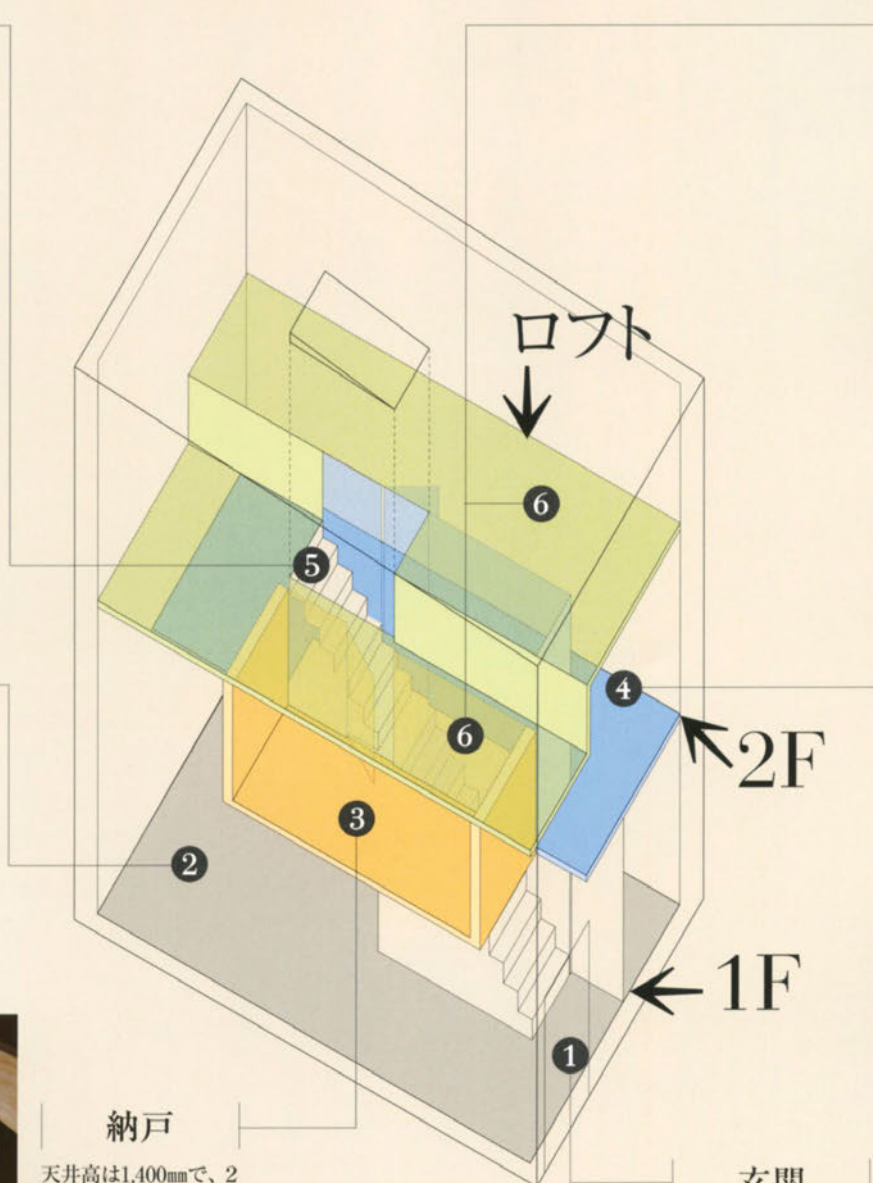


納戸

天井高は1,400mmで、2階階段をはさんで個室1と向かいあっている。

玄関

ガラス引き戸と吹抜けの開口が内部に自然光を導く。



個室2+ロフト

天井高が1,400mmのロフトは、2Fの床から800mmのレベル差がある。「姉の部屋」。



個室1

6mの奥行きをもつ細長い部屋。階段の途中から滑り込むように入る。「弟の部屋」。



“Urban Hut”

2階建てで最大容積を得る空間構成となっている。外壁は、法規・工法などの条件から、可能な限り大きな矩形平面として立ち上げる。そして内法高さ1,400mm以下によりロフト扱いとなるスペースを、2階から上で断面的にかみ合わすように配する。2階では「納戸」と「1階リビング+玄関の吹抜け」、ロフトでは「個室2の上部レベル」が、その空間にあたる。全体で実質的に2.5層分の空間ボリュームが生まれた。またその構成により、建物中央にある鉄砲階段は、1.5階分の高さを上げるだけで済む。2階の踊り場も省略し、個室1と納戸へ直接アクセスさせることで、空間効率にすぐれた階段を実現している。

る。それを生かすのには、設計に懐の深さが求められる。新築でもそうしたものを許容できれば、今までの住居観が変わってくるんじゃないか。それをこの家でも試したくて、ルーズにつくるのが魅力になるようなディテールを考えていました。つくり込まない勇気みたいなもので、手つかずのまま残しているところがあります。

## ルーズな寸法が生み出す奥行き感

—この家は断面が魅力的ですね。中間の弟さんの部屋には隠れる場所があったり、上階のお姉さんの部屋は 段上ることロフト状になって切り替わったり。

根津 実際は、お姉さんと弟さんの生活時間が異なるので、やはり、どこかで距離をとらなくてはいけない。とはいえ、ふたりで生きてきたという思いがあるから、精神的には強くつながっていると思うんです。付かず離れずという微妙な関係を意識してつくっています。

畝森 こういう部屋の形を、普通は個室とか寝室と呼ばないですよ。たとえば、2700mm×3600mmという6畳の寸法ではない。これがルーズということなんだろうと思います。細長くてもいいから、道路側から奥までの長さを全部とるんだと。そういう寸法感覚は、よくわかりました。

根津 弟さんが寝るところは、想定していたところではないんですね。お姉さんの部屋も、中途半端に細長いところに椅子やテーブルを置いて使っている。こういう部屋の使い方があるのかと気づかせてもらえる。ここに来るたびに、お施主さんの想像力はたくましくてもおもしろいと思いますね。

畝森 何か、空間に奥行きが出ていますよね。この階段は、別の場所にまとめる計画もあったんですか。鉄砲階段じゃなくて、折り返しか。

根津 最初の頃のスタディではありました。「Small House」ではフロアごとに用途を分けていましたが、ここではお施主さんから要求された部屋をワンルームに収めるのは、フロア数が少なく無理でした。でも、こんなに狭い敷地のプランを壁で仕切るのは気持ちが悪くて、



⑤ 階段



② リビング

写真上/トップライトを見上げる。最上階まで一気に上がっており、途中で踊り場はない。下/手前の天井には、階段蹴込みのポリカーボネート板を通して、トップライトからの光が落ちる。

中階段で振り分ける方法がしっくりきたんですね。畝森 1420mmの幅で、6mの奥行きというのは、けっこう特殊なプロポーションですね。

根津 ええ。ただ、900mm幅といった廊下のようにせず、そこにちよつとしたゆとりがあるからこそ、窮屈さがぬぐえて広さを感じられるのだと思います。

畝森 そうですね。部屋名ではくくられない、ほかでも使えるようなルーズさが出ていて、そういう点で「Small House」と似ていると思います。僕の場合は四角形で同じように並ぶのに対して、根津さんは奥行きで対処している。それからこの内装は、たとえば、木下地に何かを打ち付けていくことをイメージしているんですか。

根津 いや、つくり手として将来的にこれをどうしていくという想定はしてなくて、そのあたりもつくり手から住み手に投げかけていると、いいと思います。

畝森 言葉は悪いですが、作業場というか、屋外に近いような新しい室内空間をつくろうとされているのかと思います。たとえば、1階にいと玄関がすごく明るい。それは、街が自分の庭であることを表しているように感じます。単純に開くのではないけれど、より外部に近い感じがしておもしろかったです。

## 存在を主張する骨格と街になじむルーズさ

畝森 特集のテーマは「箱」ですが、「Small House」では、箱というより骨格をつくることを強く意識していました。だから鉄骨の柱梁は現しにしているし、その表面に床がボンとのもつて、外壁も扉とほぼ同じ厚さでパンと張ってある。

根津 「箱でなく骨格」という、その意識の違いはどんなものなんですか。

畝森 外壁に張った下見板、あの目地の高さは、室内に目透し張りした木質ボードの目地と揃えています。概念的ですが、都市の広がりの中に、鉄骨の骨組みがあつて、そこに床と壁と建具、あるいはサッシという部材がただ張られている。そういう、軽快で、かつ単純なものをつくりました。だからコンクリートやモルタルのような湿式の材料はほとんど使わず、乾式で徹底しています。

Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part  
3



Conversation  
+  
Case Study

“Urban  
Hut”



写真上／中央の扉は階段からの入り口。パテ処理で止めてあり、未完成のような仕上げとなっている。下／部屋の幅は手前で1,420mm。天井は上階の床の根太が現しになっており、天井高は2,200mm。



⑥ ↑ 個室2+ロフト

④ ↓ 個室1



方で、「トシゴヤ」の図面を拝見して、まさしく箱だなあと思っ  
たんです(笑)。外壁が 番濃くて、中の床は薄くしてある。箱とい  
うのは、中が守られていることだと思います。つまり、外と遮断さ  
れたきれいな室内が生まれるための箱。「トシゴヤ」もそういう手順  
を踏んでいるのでしょうか、その中はきれいなものではなくて、ル  
ーズなものになっている。それが普通の箱型建築とは違っていて、  
さつき言った、屋外に近いような室内を感じさせます。

## 街に置かれた箱の表情

畝森 もうひとつ、「四角」について言うと、それは街に対する形の  
表し方だと思えますね。建物の形というのは、室内空間の問題以  
上に、街に対して自分はどういるんだという個性の表し方です。僕  
は、まわりが密集しているから、あえて四角い小さな建物をドンと  
置いた。この街にはこう建つんだという意思表示だったわけです。  
根津さんは、街に対するこうした小さな住宅のあり方をどのように  
思われますか。

根津 僕は畝森さんと違って、街になじませようという意識が強い  
んですね。目立たせないで、無造作に、気がつかずにフッと通り過  
ぎてしまうくらいの感じにつくろうと思っていました。

いろいろな建物を見てみると、設計者の思いと違う使われ方をし  
ているパターンが多いですね。街に対してあえて閉じようとして  
いる建物もあれば、それに対して積極的に開こうとしている建物も  
ある。僕はどちらも行きすぎているように感じていて、この街のな  
かでは無理をしないようにしたいと思いました。たとえば、前面道  
路に対して大きな窓ガラスをつくと、住まい手は何かを張ったり  
カーテンをかけたたりして、視線のバランスを調整しはじめます。結  
果的にそうなるのであれば、そこまではキチッと想定して設計をし  
たい。

畝森 「トシゴヤ」は、敷地境界線とか法規などで、他律的に建物が  
出来上がっていますね。四角という形の決定についてはいかががでし  
ようか。

根津 ええ、法定的なボリュームでしか決まっていけないのですが、  
同じ四角でも違いが出るのは、やはりスケールの問題が強〜、「Small  
House」がまわりと距離をとりつつひとつ頭が出ていなのに対して、  
「トシゴヤ」は、まわりに歩調を合わせている。それと、ボックスと

### ③ 納戸 ⑤ 階段

個室1から階段越しに  
納戸を見る。手前の扉  
には、上下に連続する  
階段手すり取り付け  
られている。



Special Feature  
When a Box Isn't  
Just a Box

Part  
3



Conversation  
+  
Case Study

“Urban  
Hut”

いう形の選択については、プロトタイプに通じるものにしたとい  
う思いがあるからですね。畝森さんの構成の潔さ、余計なもの  
を除いていく意志にも、同様なものを感じます。

## 新たな時代へ向けた建築のあり方

——2作はある意味で、とても対照的な建物だと思いました。  
「Small House」は建築的な意図に満ちあふれているし、「トシゴヤ」  
はそれを抑制しています。

根津 確かに、畝森さんの住宅は気合いの入ったデビュー作という感  
じですよ(笑)。

畝森 無我夢中でした(笑)。「Small House」もかなりのローコストで  
した。ローコスト住宅は大変ですが、本当に必要なものは何かと考  
えさせられますね。

根津 今、時代が変わってきていて、世の中には空き室がいっぱい  
ある。そこで新築を建てるなら、こういうスタンスで行くという建  
築家からの表明を出すべきだと思います。たとえば震災以降、公共  
建築も住民との対話を重視して、そこからのをつくっていく動き  
がある。リノベーションにしても、お施主さんと 緒になってつく  
っていく流れが出始めた。僕は、建築と住む人の距離を変えたいと  
思っている。自分で洋服をつくったり、野菜をつくって食べたりす  
ると、衣食への意識が近くなる。 般の人が住環境をつくることに  
参加して、建物への思いを高めることに興味をもっています。

畝森 そうですね。僕は内装が変わっていくことは、まったくかま  
わないと思っています。でも、絶対に重要なのは骨格です。そ  
れがないと、建物がなくなってしまう。

じつは、今設計している建物はこれより小さくて、敷地が7・5  
坪です。カバン職人さんの工房兼店舗兼住まいで、都心の大通り沿  
いにRC造の5階建てを計画しています。クライアントは、いずれ  
結婚されてふたり住まいになるかもしれないし、子どもができるか  
もしれないし、あるいは建物全部がオフィスになるかもしれない。  
用途がないに等しい状況で、すごく現代的だなあと思う。北山恒さ  
んは、こういう時代だから新しいイデオロギーが生まれる、とよく  
話されています。今は建築の純粋性がより求められるし、新しい建  
築をつくれるときなんだと感じています。



## 「トシゴヤ」

建築概要	
所在地	東京都
主要用途	専用住宅
家族構成	姉弟
設計	根津武彦+三谷周平/ 根津武彦建築設計事務所
構造設計	鈴木啓/ASA
施工	伸栄
構造	木造在来工法
階数	地上2階
敷地面積	30.37㎡
建築面積	22.13㎡
延床面積	44.26㎡
設計期間	2009年12月~2011年3月
施工期間	2011年4月~7月
おもな外部仕上げ	
屋根	ガルバリウム鋼板立てハゼ葺き
外壁	アイ耐火-30軽量セメントモルタル t=30mm+セラミタイトリシン吹付け
開口部	アルミサッシ
おもな内部仕上げ	
リビング・個室1	個室2
床	ワイドノッティホワイトオイル t=12mm
壁	強化PB t=21mm 二重張り AEP
天井	構造用合板 t=12mm+木下地 @303mm



Nez Takanori

### 根津武彦

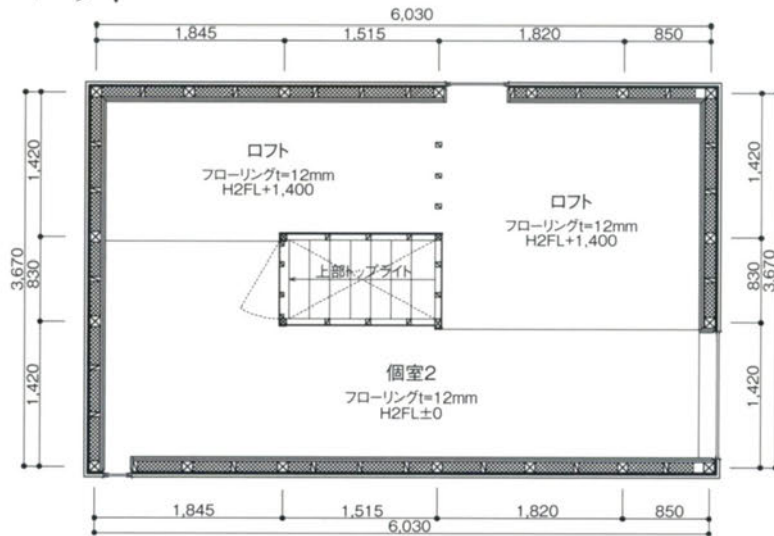
1965年山梨県生まれ。91年東京理科大学大学院修士課程修了。92年ロンドン大学バートレットスクールオブアークテチャーズ卒業。92年~SHIMZ UK(ロンドン)、95年~北川原温建築都市研究所、2002年ロコアーキテクト共同設立。08年根津武彦建築設計事務所設立。05年グッドデザイン賞、神奈川県建築コンクール最優秀賞、06年JCDデザインアワード金賞など。現在、ICSカレッジオブアーツ非常勤講師。

## 平面図

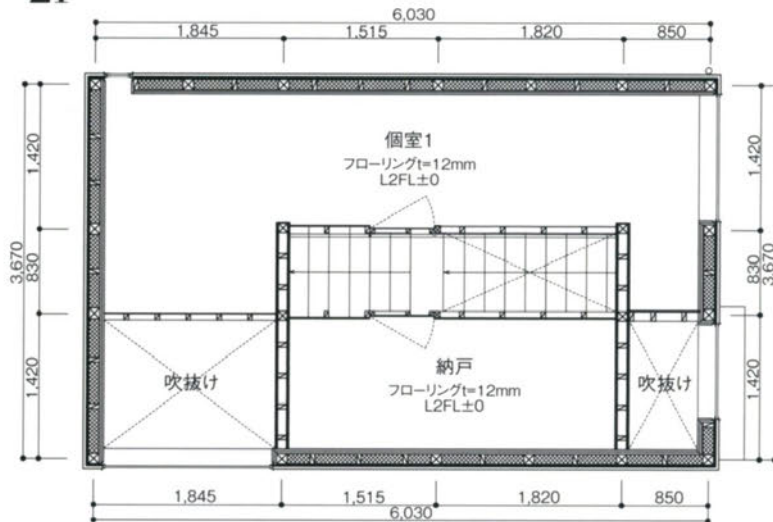
0 0.5 1m

1/75

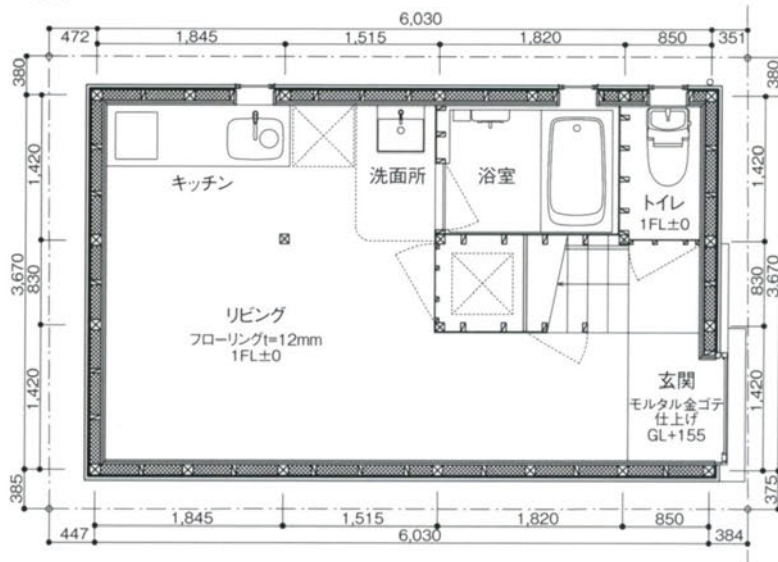
### ロフト



### 2F



### 1F



うら かずや／建築家 インテリアデザイナー。1947年北海道生まれ。70年東京芸術大学美術学部工芸科卒業。72年同大学大学院修士課程修了。同年日建設計入社。99～2012年日建スペースデザイン代表取締役。著書に『旅はゲストルーム』（東京書籍 光文社）がある。

スリランカのジェフリー・バワ (Geoffrey Bawa) の建築が気に入り、今年もスリランカに行ってきた。

ジェフリー・バワは最近いろいろ取り上げられているが、あまり知られていなかった。1919年に西欧人とスリランカのシンハラ人のあいだに生まれ、首都コロomboの裕福な弁護士の子に育ち、ケンブリッジ大学に遊学。長身で風貌も欧米人の

ようであつたらしい。イギリスで弁護士を開業したが帰国。中南部のベントータに広大なゴム園を入手。しかし建築技術の素養がないことを気づかされ、再びイギリスに渡ってA Aスクールで勉強を始める。38歳で設計活動を始め、エドワード、リード&ベッグという設計事務所のパートナーとなり、その後多くの建築を設計する。いくつもの大型リゾートホテルや、大学、個人邸、寺院、国会議事堂、大阪万博セイロン館など、40年間で200を超えるプロジェクトがある。

入手したゴム園を「ルスガンガ(楽園)」と称し、長年にわたって手を入れつづけた。2003年に84歳で没して遺灰がその木の下の撒かれたことは、第80回旅のバスルーム(2011年春号)にも書いた。

バワは多くの人々に敬愛され、現在はその作品が財団で管理されている。その財団が入っているコロomboの自邸「33rd Floor」は日本の町屋のようではらしい。

この山岳リゾートホテル「カンダラマ」は91年から94年の仕事だが、同時期に設計された海浜リゾートホテル、「ライトハウス」とか「ブルーウォーター」などはやや異なっている。

はじめに訪れたときは、コロomboの空港から車で4時間、雨の密林をひた走り、到着すると息をのみ鳥肌が立った。忽然と闇夜に浮かぶオープンエアの長いレセプションロビー。まるで映画「地獄の黙示録」(＊1)のマーロン・ブランドの



シーギリヤ ロックは岩頭そのもの高さ約195m。フレスコ画が残る。

神殿に到着したかのように劇的。このエントランスロビーは世界だ。

152室、スバも含め972mの長さの建物が岩山を取り巻いている。建物のそこかしこに大きなロックがそのまま。熱帯植物が鬱蒼と繁茂し、ほとんど廃墟か遺跡。あと数年ですっかり飲み込まれてしまおう。晴天下もよかつたが雨に煙るたずまいは凄味があつた。それに、この建築には中から外をどう見るといふ視点がある。

開われているのは客室やダイニングルームだけで、うっかり窓を開けたまま食事に行っていた女性の部屋にサルが侵入し、ポーチまでひっくり返されて大変な事になつてた。バスルームではガラス張りが外部に面し、まるでジャングルの中で裸になつていようだ。サルがのぞくので動物園の逆。レースのように下がる植物を通して4世紀につくられた人造湖がキラキラと見える。風が通るラウンジ。広がるインフィニティ・プール。うねる白壁。鳥や動物の声。

今回も2泊したが、こんなホテルで飽きるほどロングステイしてみたい。マーロン・ブランドみたいになつてしまいうだが……。

はるか遠くに見える「シーギリヤ・ロック」という世界遺産に登った。高所恐怖症の方にはおすすりできない。遠い昔、狂気のカーシャバ王(＊2)が頂部に宮殿を築いたという。ジャングルには魔物がいるのだ。

＊1/地獄の黙示録 1979年製作のアメリカの戦争映画。監督はフランシス・フォード・コッポラ。  
＊2/カーシャバ王 5世紀、カーシャバは父王から王位を奪い、弟はインドに亡命した。父を殺害したカーシャバは復讐を恐れてシーギリヤ・ロックの頂上に宮殿を築く。その後、弟が戦いを挑み、岩を下りた王は敗れたという。宮殿の命は11年間であつた。

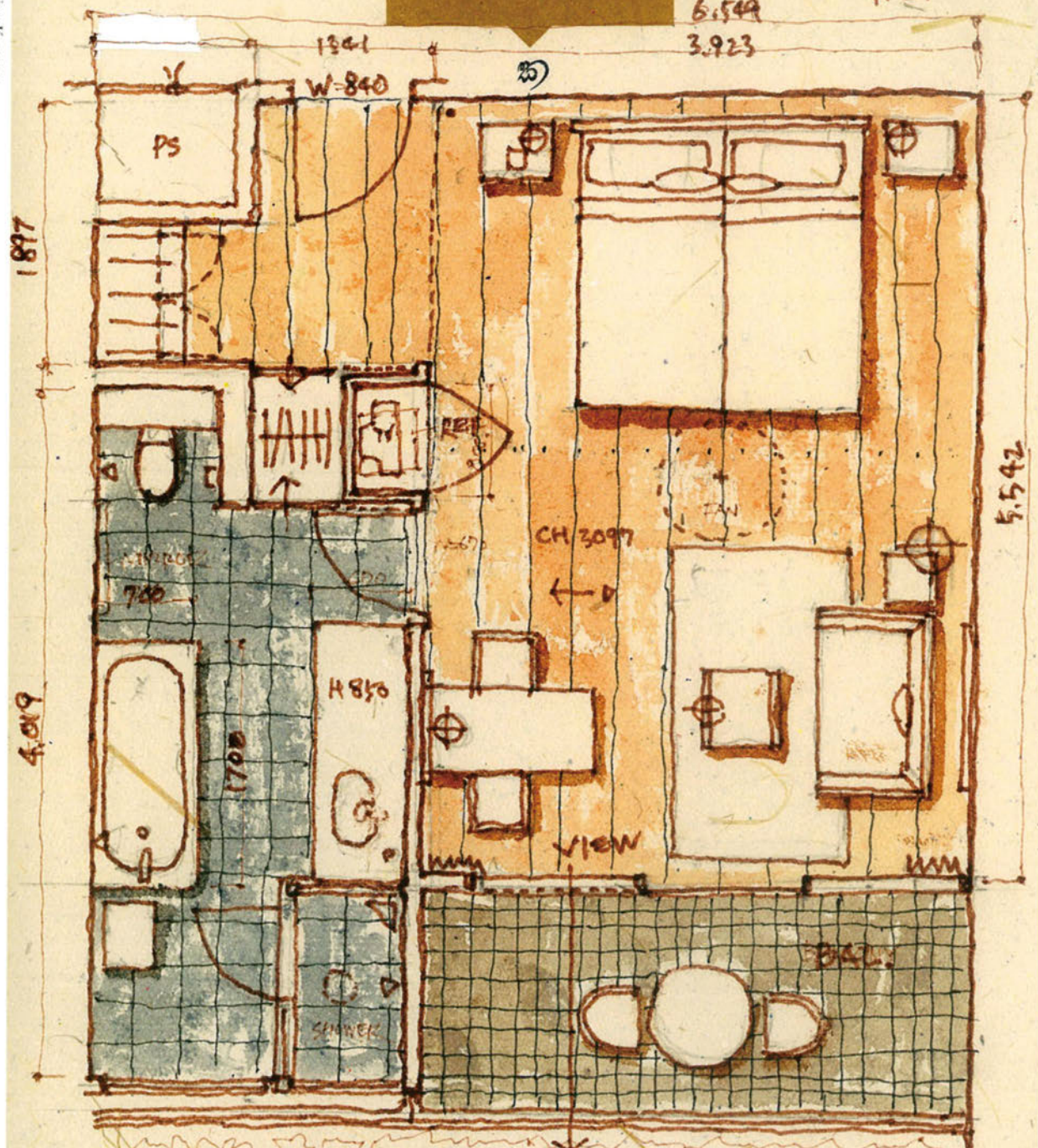


サルの親子。

## ジャングルの中でシャワー

# HERITANCE Kandalama

2011/1/8.9 #212  
6.549  
3.923



**GREEN For Guest Use Only**  
 Heritance Kandalama, P. O. Box 11, Dambulla, Sri Lanka. Tel: +94 66 5555000 Fax: +94 66 5555050  
 Email: kandalama@heritancehotels.com Web: www.heritancehotels.com



簡素な仕上げ。ワードローブは両面から使える。

Heritance Kandalama Hotel

Add/P.O.Box 11, Dambulla, Sri Lanka

Tel/+94 66 5555000

Fax/+94 66 5555050

E-mail/kandalama@heritancehotels.com

URL/www.heritancehotels.com

Room charges/ Superior:203\$~ Luxury:239\$~ Suite:356\$~

1 US\$=80.47円(2012年6月22日現在)



Chicken House

# 筒の先に開口

チキンハウス 設計 / 吉田研介

1

1 / 印象深い室内。  
なんせ、ロフトが左  
肩にある。階段の幅  
は、工事途中で変え  
た。煉瓦の壁は、負  
けるのでペンキで  
隠したそうだ。

# 現代 住宅 併走

第二十回

連載

文 / 藤森照信

Text by Fujimori Terunobu,  
Photographs by Akiyama Ryoji

写真 / 秋山亮二



2 / 道路から正面を見る。道沿いのフェンスと小室は後の増築。当初は、右手2階の「パタパタ窓」がとても印象深く見えていた。

3 / 主室（玄関、居間、食堂）の居間的コーナーを見る。右手はめ殺しの大方ラス。ロフトは設計室で、かつてはスタッフがここで図面を引いていた。4 / ロフトから主室を見下ろす。マティスの青が美しい。

2



4 3

## 後

に「野武士」と呼ばれる私たちの世代は、磯崎新世代に兄事しながら、そのすぐ下の宮脇檀、黒沢隆、吉田研介などには近寄らないようにしてきた。私たち世代で最も鼻の利く石山修武がそのあたりを仕切り、リードしたのだと今にして思うが、吉田さんも同じことを感じていたらしく、「どうしてチキンハウスを選ばれたのですか？」と、この連載を始めて初めての質問をなされる。

返答に窮しつつ、写真から強い印象を受けながら、その印象がこの建築のどこに由来するかわからなかつたから。などと思いつつながら、「吉田さんの代表作ですから」とか口に出してお茶を濁し、白い上品なお皿に盛られたおいしいドライカレーをモダンデザインのスプーンで食べて帰ってきました。

白い室内にはマティスのブルーの切り絵状リトグラフと篠田桃紅の色の入った墨象リトグラフと建築家でもある紀子夫人のル・トロネの水彩が飾られていたが、野武士たちの誰の家でもこんな室内光景はお目にかかれない。

この住宅が強い印象を与える秘密は開口部にあった。まず左手の主室の窓に注目してほしい。上・下ふたつに分かれて、主室の吹抜け空間の開口部となっているが、開く気配がない。はめ殺し。左手のドアは通風用の開口。

37年前の空調のない時代、主室





5

現代住宅 併走  
Yoshida Kensuke × Fujimori Terunobu

5 / 主室を道路側から見る。左手が玄関コーナーで、白い長いベンチは客が、ちよつと腰かけたりするよう考えたが、そんな使われ方はしなかったという。6 / ロフトから見下ろす7 / ベンチ塗りの煉瓦壁というヘンな仕上げには深い思いと事情があるが、話せば長くなるので止める。

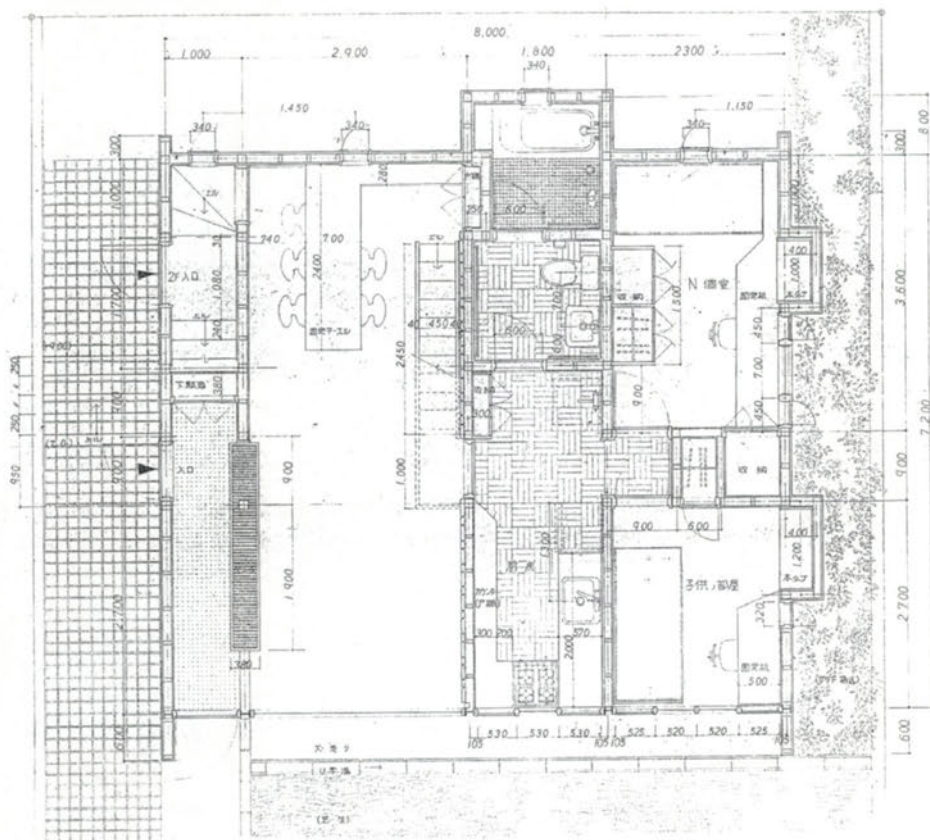


7 6

の主要な窓をはめ殺しにするなんてめったなことでもするもんじゃない。空調のある現在でも、住人の抵抗は著しい。先例としては、前回の穂積信夫さんの「自邸」しか私は知らない。その大胆さを現在にたとえるなら、小住宅にブラインドを仕込んだダブルスキンの窓を付けるに等しい。

はめ殺し大ガラス窓の右手ロフトには小割りした四角な窓が並ぶ。この開口部も主室と同じ原理でつくられ、中央のはめ殺しは光だけで、左右の跳ね出しは通風用。小窓が並んで跳ね出すのを見るのは初めてで、主室の開口部より目に焼きつく。吉田さんは「パタパタ窓」と名づけているが、ル・コルビュジェが工夫した「ポチ窓」と通ずる小さいが故の印象深さがある。この作品発表後、吉田さんが宮脇檀に初めて会ったとき、初対面の第 1 声は「あの窓、やらしてもらったからねエ」だったそうだ。上階は両親用だから別にして、下階の正面は壁面すべてが開口部で占められ、その開口部のすべては採光用のはめ殺しと、通風用の開口（ドア形式と、パタパタ窓形式）で占められている。

この建築の印象深さの秘密は、まず、木造の小住宅でありながら、ファサードを全面開口部としたことにある。ありそうだが、手近の住宅雑誌で確かめていただければすぐわかるが、ない。正確に言うると、木造での全面開口は耐震構造



現代住宅 併走  
Yoshida Kensuke × Fujimori Terunobu

開

上ありえず、ここではファサードのみ鉄骨のラーメン構造という奇策を用いている。しかし、鉄骨ラーメンの剛性が大きく不足し、近年プレースを入れたが、それでもこのたびの地震のときは恐ろしいくらいの変形ぶりだったという。全体は木造でありながらファサードのみ鉄骨ラーメンという奇策を弄してでもこの建築家は、全面開口をしたかったのだ。

口に賭けたと言ってもいいが、その賭けは、開口部そのものだけでなく、開口部のまわり、人体でい

えば口のまわりの「唇」に及ぶ。写真2を見てほしい。変わった「唇」で、まず「下唇」がない。床が地面とほぼゾロに納まる。その代わり、「上唇」の強烈なこと。こんなに固く強く突き出す例は知らない。なんせ、住宅にはまず使われず、駅やガソリンスタンドや倉庫やコンテナや工場にもつばらのデッキ（折版）なのだ。

デッキには気合いを入れ、山が小さいのはいやなので、検討を重ね18cmの山にしたという。デッキを建築表現の前面に出したのは、後に何人もしているが、37年前の吉田研介が最初となる。デッキのギザギザと小窓のパタパタの造形は明らかに通底していよう。

（チキンハウス）は、口と唇を顔面の主役とした。開口部の建築だったのである。

チキンハウスの命名は文字通り

「鶏小屋」から来ていて、超ローコストを意味するが、偶然ながら鶏も嘴が印象深い。

開口部の建築とまで理解が届いて、やっと平面の謎がわかった。平面は、図面を見ていただければわかるように、南北に長い敷地に對し、正方形平面をとる。ここまでは普通だが、その平面の中の部屋の割り付けが普通ではない。チキンハウスの室内の見どころは吹抜けとロフト状の中2階だが、普通、誰でも南側を吹抜けとし、北側に中2階をとるだろう。ところが、この定石を破り、西側に細長い吹抜け、東側に細長いロフト状の中2階としたのだ。

「なぜこのような構成に」と聞くと、答えは「やっているうちにそうなっていた」。私の長い建築家インタビュー歴のなかで、勘所の質問にこのように正直な答えを返した建築家は、吉村順三に続いて吉田研介がふたり目。

空間を長手方向に区切る構成は、この建築家の想像力の内側からおのずと発生したものにはちがいない。空間を長手方向に区切ると筒型の空間が生まれるが、とすれば、筒型空間は吉田研介の想像力に内在していたことになる。

筒の開口部は全面開口が必然だし、筒の開口部に窓をはめるとすると、ふさわしいのははめ殺しか弁状のパタパタのふたつだろう。かくしてチキンハウスの印象深さは生まれた、と私は理解した。



## チキンハウス

Chicken House

### 建築概要

所在地	神奈川県川崎市
主要用途	専用住宅
設計	吉田研介/ 吉田研介建築設計室
施工	由井建築
敷地面積	149㎡
建築面積	56㎡
延床面積	115㎡
階数	地上3階
構造	木造
設計期間	1974年8月～1974年12月
施工期間	1975年1月～1975年6月
図面提供	吉田研介建築設計室

## 吉田 研介

Yoshida Kensuke

1938年、東京に生まれる。早稲田大学で安東勝男研究室に学び、62年、卒業して竹中工務店に入るが自分の道ではないと考え、64年、大学院生として安東研究室へ戻った。この時期、当時の穂積信夫助教授と机を並べて理工学部の実施設計をする体験をした。68年、独立し、「チキンハウス」が出世作となった。その後もローコスト魂は消えず、現在は「粗材、労手苦、労コスト」をモットーに掲げる。



## 藤森 照信

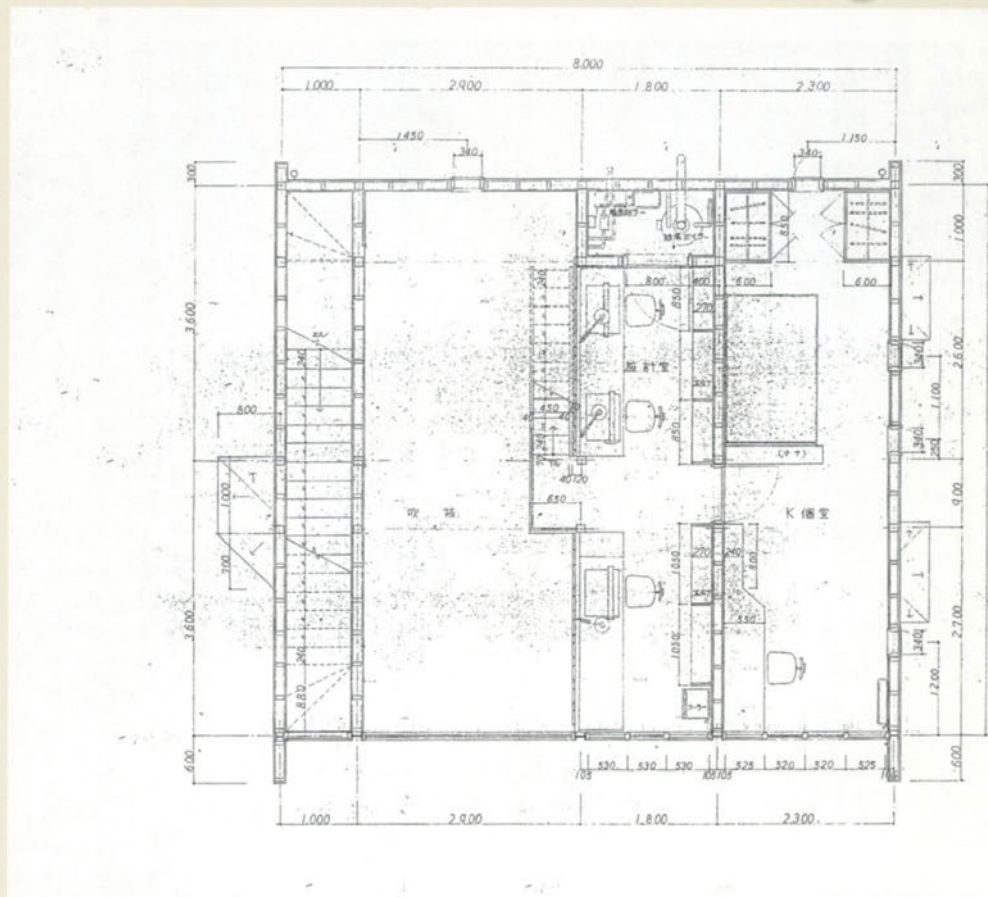
Fujimori Terunobu

建築史家。工学院大学教授。東京大学名誉教授。専門は日本近現代建築史、自然建築デザイン。おもな受賞＝『明治の東京計画』(岩波書店)で毎日出版文化賞、『建築探偵の冒険 東京篇』(筑摩書房)で日本デザイン文化賞・サントリー学芸賞、建築作品「赤瀬川原平邸(ニラ・ハウス)」(97)で日本芸術大賞、「熊本県立農業大学校学生寮」(2000)で日本建築学会作品賞など。



## 竣工時2階平面図

N 1/100



※3階平面図は省略。



8 / 道路側に突き出す増築の子ども部屋室内。屋根を支える鉄骨がかわいくて美しい。



9 / 寝室は最初から夫婦別寝室で、これは黒沢隆の「個室群住居」の影響だといふ。夫婦別寝室といい、ものすごくフレキシブルな使い方をしてきた住宅にちがいない。3階部分には父母も同居していた。

# トイレから発見する新しい渋谷

Number

30

## 渋谷ヒカリエ

取材 文／大山直美 写真／川辺明伸(外観写真とポर्टレイトを除く)

4月26日、東京・渋谷の東急文化会館跡地に、話題の高層複合施設「渋谷ヒカリエ」がオープンした。建物は地下4階地上34階建てで、内部

はおもに低層部の商業施設、中層部の文化施設、高層部のオフィスからなる。東京急行電鉄が事業推進者となり周辺権利者と進めた共同事業で、設計は日建設計・東急設計コンサルタント共同企業体。

かつての東急文化会館といえば、プラネタリウムや複数の映画館を擁し、最先端の文化を発信する街のシンボルだった。しかし、近年、若者文化の発信地へと急速にシフトした渋谷は、若者を卒業した大人たちに

敬遠される街になってしまった点は否めない。

「東急文化会館のDNAを引き継ぎ、街に開かれた施設をコンセプトに計画、渋谷の街の活性化を目指しました」と東京急行電鉄渋谷開発事業部の関光浩さんは語る。

関さんによれば、大きさの異なる箱が重なる外観的な特徴は、用途ごとにまとまった箱とL型のモチーフにより、さまざまな向きに向いている街を表しているという。また、それを縦に重ね、ストーリーに見立てたエレベーターなどがそれらをつなぐという立体的な街を表現した、新しい街のランドマークとなっている。

Shibuya Hikarie

### かつての東急文化会館のDNAを引き継ぎ、新しい街の象徴として誕生



↑渋谷ヒカリエ外観

### レストルームを 超えた

### 「スイッチルーム」

ところで、話題に事欠かないこの渋谷ヒカリエのなかでも大きな評判を呼んでいるのが、ほかならぬトイレ

レだ。東急百貨店が地下3階、地上5階に開いた商業施設「ShinQs(リンクス)」のトイレがそれで、もはやトイレの概念をはるかに凌駕した多機能な空間。その名も「スイッチルーム」と命名されている。

ShinQsは働く大人の女性をター

### 5階スイッチルーム



↑エントランス



↑女子洗面コーナー入り口



↑女子トイレブース

商業施設「ShinQs」の6つのフロアにあるトイレは、「スイッチルーム」と名づけられた。仕事のオンオフ、日常と非日常を切り替えられる特別な空間。

### 3階スイッチルーム



↑エントランス



↑女子トイレブース



↑男子トイレ

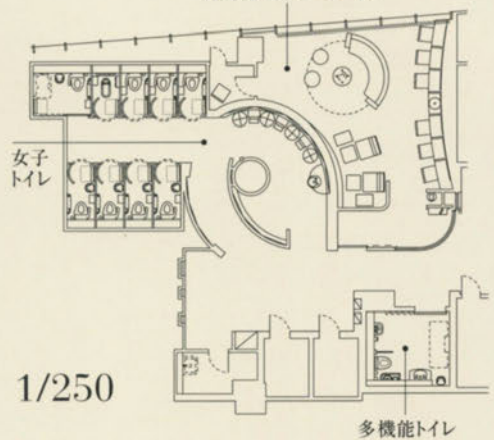
3階は、働く女性の感性を刺激するというテーマでデザインされている。なお、男子トイレは、3階、地下1階、地下3階の3カ所。

# 商業施設「ShinQs」

渋谷ヒカリエ 地下3階～地上5階

0 2 4m

会員制パウダールーム



1/250



写真右/女子トイレに隣接して、カード会員限定のパウダールームが設けられた。ゆったりと過ごせるリフレッシュ空間。左/見返し。右奥はフットマッサージ機。

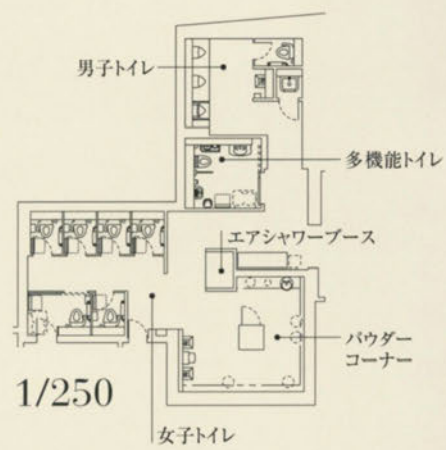
↑会員制パウダールームの見返し



↑会員制パウダールーム

0 2 4m

男子トイレ



1/250

女子トイレ



写真右/女子トイレのパウダークーナーの鏡にはディスプレイが埋め込まれ、さまざまな最新情報が発信されるという。中央のガラスケースは、アートなどの展示用。左/花粉除去や消臭効果で、気分を“オン”へと切り替える「エアシャワーブース」。

↑女子トイレ  
エアシャワーブース



↑女子トイレパウダークーナー

## 地下2階スイッチルーム



地下2階スイッチルームは、「キレイを保つママを応援」をテーマにしている。

踏む力で発電する床。ここを踏むと壁面の鳥カゴに白い鳥(照明)が現れる。

↑ エントランス

## 4階スイッチルーム

写真右/4階は、アウトドアやレジャー関連のフロアに合わせて、リゾート気分と遊び心にあふれる仕掛け。森の中や深海など、ブースごとに異なる内装を施した「バーチャルトリップ」で楽しませる。左/どのフロアも、エレベータホールとスイッチルームが一体となったデザイン。



↑ エントランス



↑ 女子トイレ

設計担当としてメンバーに加わった丹靑社の町田怜子さんと吉田麻紀さんも、まさにShinQs世代。おふたりによれば、このトイレづくりのために職業やライフスタイルの異なる5人のキャラクターを設定し、その女性たちならどんなトイレを望むかを想像しながら、アイデアを出していったそうだ。

まず各繁華街のトイレ事情を徹底リサーチしたというShinQsフード兼営業推進担当マネジャーの大谷香奈子さんは、「渋谷はトイレの絶対数が少なく、夕方5時を過ぎると東急東横店の女子トイレでは10人待ちがあたりまえという状態でしたし、ゆっくり化粧直しできるスペースがない、汚いといった声も多く聞かれましたね」とふり返る。そこから、もっと仕事のオンオフ、日常と非日常を切り替えられるような、従来のトイレを超えた「スイッチルーム」の発想が生まれてきたという。

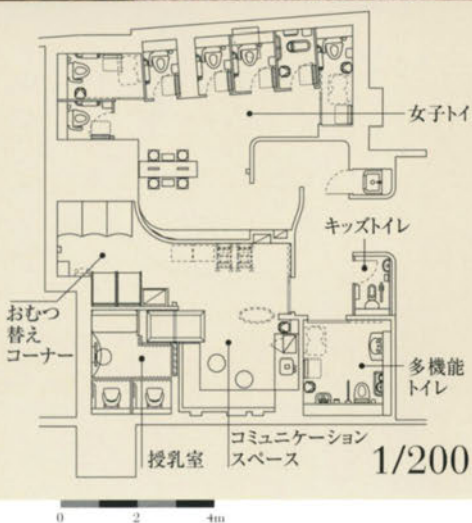
ゲットにした、百貨店ともショッピングセンターとも違う新しいスタイルの店舗。これまで渋谷で買い物をする場合、年配客なら東急百貨店、若者は109を選ぶが、そのあいだの年代はそもそも渋谷という街を避ける傾向にあったという。働く女性やトレンドに敏感な若い母親世代が足を止めてくれる魅力をちりばめた店をつくるうえで、快適なトイレは不可欠な存在と考えた同社では、ターゲット世代の女性を中心にプロジエクトチームを結成。メンバーは「世界のトイレをつくらう」を合い言葉に、結束していったそうだ。



↑キッズトイレ



↑コミュニケーションスペース



写真右上/コミュニケーションスペース。絵本などが置かれ、ここは父親も入れるので、家族揃ってくつろぐこともできる。おむつ替えはもちろん、乳幼児の身長・体重測定も可能。右手前は女性限定の授乳室。その出入口には、体重で吊り下げ式引き戸が開く無電源自動ドアが設置されている。右下/女子トイレ。左上/多機能トイレの脇に設けられたキッズトイレ。



↑女子トイレ

### 地下3階スイッチルーム



↑多機能トイレ



↑男子トイレ

写真右2点/ビューティのフロアの地下1階は、そのテーマにふさわしく、白と光を基調にしたデザイン。左2点/地下3階は地下鉄の改札口に近いので、広い通路の確保などユニバーサルデザインを意識。多機能トイレは「RESTROOM ITEM 01 (ゼロワン)」で機能性とデザイン性を両立。

### 地下1階スイッチルーム



↑女子トイレ



↑エントランス

極めつきは5階のカード会員限定のパウダールーム。さながらホテルのロビーのような広々とした空間に、フットマッサージ機や酸素バー、携

「フロアごと」に内装を変えたきれいなトイレは今やあたりまえですが、まだ陰と陽でいえば陰、ハレとケでいえばケの空間として扱われているのが現状のトイレ。それすら払拭して、まったく新しい空間のあり方を発信するチャンスがいたただけたというのはとても光栄でしたね」と町田さん。また、吉田さんも「せっかくの買い物の楽しさもしほんでしまうようなトイレではなく、そこで十分リフレッシュできる空間をつくれれば、お客さまの滞在時間を増やすことができますから」と、このプロジェクトに賭けた意気込みを語る。

6つのフロアに配したスイッチルームは、各フロアのテーマに合わせた六者六様のデザイン。ブースや洗面所の配置といったプラン自体も、機器の選択や照明のデザインも、同じものはひとつとしてない。たとえば、働く女性を意識した3階のトイレは黒を基調にしたスタイリッシュな内装で、角には花粉除去や消臭効果のある「エアシャワーブース」も備えている。「ランチで焼肉を食べるでも、ここでスイッチすれば、午後の会議も大丈夫です」とは大谷さんの弁。これに対し、アウトドアや旅など、オフタイムを想定した4階のトイレはカラフルでリゾート気分満点。ブース内の壁の色柄もすべて異なる。BGMやアロマもフロアごとに変えるという凝りようだ。

帯充電器テーブルを完備。ゆったりとリラックスタイムが満喫できる。

開店後の評判は上々で、話題のトイレを利用するのが主目的で立ち寄る客も少なくなさそうだが、それも歓迎だと大谷さんは笑う。

## ビルの価値を 上げるトイレ

最後に、オフィスのトイレを取材した。商業施設が話題をさらっている渋谷ヒカリエだが、用途ごとの床面積からいえば高層階のオフィスが最も大きい。関さんの話では、渋谷にはもともと大きなフロアのテナントオフィスが不足しており、渋谷で起業して会社が成長し規模が大きくなったときに、渋谷で条件に合う大型テナントオフィスがなく、別の地域に移転してしまう傾向があったという。そのため渋谷ヒカリエでは、



## オフィス

### 男子トイレ



### 女子トイレ

写真上／新宿の高層ビル群などを望める、リフレッシュ効果の高い空間。下／洗面 菌みがきカウンター。



写真上／男子トイレ全景。  
右下／男子トイレにも菌みがきボウルを完備している。  
左上／窓際のブースを見る。



Seki Mitsuhiro

東京急行電鉄  
都市開発事業本部  
渋谷開発事業部  
開発部 課長

関 光浩

Ootani Kanako

東急百貨店  
ShinQsフード  
ShinQsスイーツラボ、  
プチデリファクトリー  
セールスマネジャー兼  
営業推進 営業推進担当マネジャー

大谷 香奈子





# 渋谷ヒカリエ

Shibuya Hikarie

## 建築概要

所在地	東京都渋谷区渋谷2-21-1
主要用途	商業、オフィス、文化施設、駐車場ほか
事業団体	渋谷新文化街区プロジェクト推進協議会 (東京急行電鉄、東京地下鉄、東宝不動産、田中ビル、嘉栄ビル、ヒラゼンビル)
設計監理	日建設計・東急設計コンサルタント共同企業体
施工(建築)	東急・大成建設共同企業体
施工(衛生)	西原衛生工業所
敷地面積	約9,640㎡
延床面積	約144,000㎡
用途別面積	商業:約32,000㎡、オフィス:約50,000㎡ 文化施設:約24,000㎡、その他:約38,000㎡
構造	鉄骨造(一部鉄筋コンクリート造、 鉄骨鉄筋コンクリート造)
階数	地下4階、地上34階、塔屋2階
施工期間	2009年7月~2012年3月(本体工事) 2012年春~2017年春予定(関連工事)
開業	2012年4月26日

## おもなTOTO使用機器

### オフィス基準階トイレ(17~34階)

- 大便器ユニット UTEC53(8L洗浄 一部6L洗浄)  
腰掛式フチなしトルネード便器(壁掛式) C516P  
手かざしセンサースイッチ式FV TES26PE1B  
ウォシュレットP TCF584V52W 棚付二連紙巻器 YH701
- 小便器ユニット UTEU23(ジアテクト付き)  
壁掛ストール小便器 UU721RU  
手すり YHR600W(男子1カ所)
- 洗面器ユニット UTEL72  
はめ込角型洗面器 L520 自動水栓 TEL121AS  
水石けん供給栓 TS130HA 電気温水器 REA05特  
クリーンドライ TYC310S
- 歯みがきユニット UTEH11  
歯みがき器 L595 レバー式単水栓 TL595AX  
ボール洗浄給水栓 TL595WX
- 多目的ユニット UTEU53  
腰掛式フチなしトルネード便器(壁掛式) C516P  
タッチスイッチ式FV TES27PE1  
アプリコットF2 TCF4521EV39  
ワンタッチ紙巻器 YH51R 壁掛汚物流し SK35

### ShinQsスイッチルーム(地下1~3、地上3~5階)

- 大便器ユニット UTEC53(6L洗浄)  
腰掛式フチなしトルネード便器(壁掛式) C516P  
手かざしセンサースイッチ式FV TES26PE1B  
+TEF26-1RXB(男、女:木村技研製FV)  
ウォシュレットP TCF584V53W 棚付二連紙巻器 YH701  
手すり T114CLVW8996 他
- 小便器ユニット UTEU31(ジアテクト付き)  
壁掛ストール小便器 US800CE
- 洗面器ユニット UTEL92  
はめ込角型洗面器 L120DM  
自動水栓(単水栓) TEL120AWS  
水石けん供給栓 TS130HR 電気温水器 REA03特  
クリーンドライ TYC400WN 他
- 多目的ユニット UTEU63(6L洗浄)  
腰掛式フチなしトルネード便器(壁掛式) C516P  
タッチスイッチ式FV TES27PE1+TES26-1RXB  
アプリコットF2 TCF4521EV39  
ワンタッチ紙巻器 YH51R 壁掛汚物流し SK116
- 多機能トイレ(地下3階) RESTROOM ITEM 01  
フラットカウンター多目的トイレバック、オストメイトあり

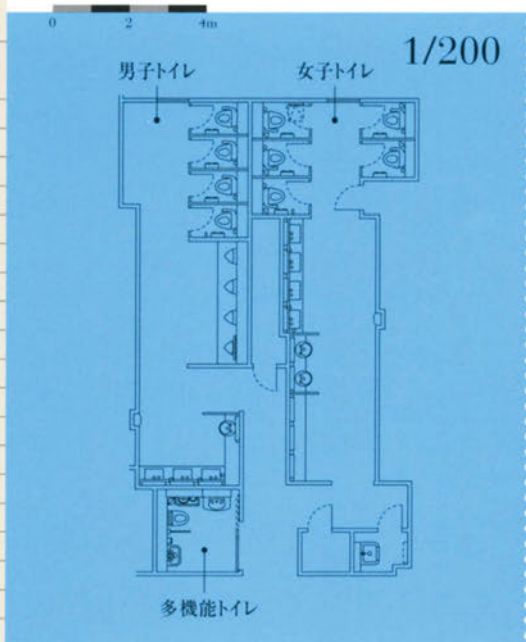
基準階2000㎡以上、片側にコアを寄せ、3方向が奥行き18m均の広々とした無柱空間を実現した。北側の開口部に面したトイレは明るく、白を基調にした清潔感あるスペース。テナントオフィスには珍しく、男女とも歯みがきボウルを完備しており、多機能トイレも全フロアに配置。眺望のよさは抜群で、眼下に代々木競技場と代々木公園の緑が広がり、その向こうには新宿の高層ビル群も遠望できる。

今回あらためて感じたのは、売り上げや賃料に結びつかないトイレは隅に追いやられ、予算も時間もかけられないという時代はぜひぶんと遠く離れたところだ。とくにShinQsのスイッチルームが今後、大型商業施設のトイレの新スタンダードとなることはまちがいないだろう。それを超えるトイレとはどんなものなのか。さらなる新発想から生まれたトイレ空間が登場する日を楽しみに待ちたい。

Shibuya Hikarie / Office

## 渋谷ヒカリエ 17~34階

## 多機能トイレ



白を基調にした清潔感あるデザインは、多機能トイレも共通。オフィスの全フロアに多機能トイレが設置されている。

Machida Satoko



丹青社  
CS事業部  
コマーススペース  
デザイン統括部  
プロダクション  
デザイン部2課 デザイナー

## 町田怜子

Yoshida Maki



丹青社  
CS事業部  
コマーススペース  
デザイン統括部  
デザイン部2課  
デザイナー

## 吉田麻紀

# 家づくりを変え「正義感」

代表取締役社長 村上紀夫 さん

地元石川や隣県富山を中心に事業展開する、北陸屈指のビルダー、ニューハウス工業を率いるのは、創業社長の村上紀夫さん。ニューハウス工業としてのスタートは1966年だが、実際の活動はその5年ほど前からというから、すでに50年を超える。試行錯誤を繰り返してきた半世紀にわたる活動のなかでも、貫して「正義感」をもちつづけてきたという村上さんの基本姿勢は、その凛とした立ち姿にじみ出る。

## 業界をリードする先見性

ニューハウス工業の先駆的な

取り組みのなかでも、住宅産業全体に大きな影響をおよぼしたのが、今ではどこもがあたりまえに行っているプレカット技術の早期導入だ。まだ「プレカット」の言葉さえない71年に、自社のプレカット工場を建設していることから、その先見性は明らかだ。

創業当初、ニューハウス工業の家づくりは5、6人の大工に拠っていたが、その頃から「事業を拡大していけば、いずれ職人不足に悩まされる」さらに「大工の腕の良し悪しによって出来上がる家に差ができる不公平感をなくしたい」という村上さんの強い思いが、「浜松のメーカー

まで出かけていって」のプレカット技術の開発に結びついた。また、メンテナンス対応についての施策も、業界内でそうとう早い。自社住宅のメンテナンス業務を行う関連会社・ニューハウスサービスは、75年の創業である。

品質の安定化や長期保証は、現在、消費者保護の観点から法律が躍起になって網をかけようとしている分野だが、ニューハウス工業では、およそ40年も前から取り組んでいるということだ。その原点に、同じお金を払っていて損をする人がいないように、あるいは長く安心して使ってほしい、という村上さんの

NEW HOUSE / Murakami Norio

村上紀夫 (むらかみのりお)  
 /1941年石川県生まれ。  
 60年石川県立鶴来高等学校卒業後、別宮製材所勤務。  
 66年別宮建設株の取締役。  
 72年別宮建設の社名変更、ニューハウス工業株代表取締役社長。





Housing Company

今、住宅会社の動きから目が離せない。  
活動領域はさまざまだが、  
それぞれの土地柄、会社の性格、  
そして会社をリードする人物の性格、  
マーケティング戦略……。  
これは、その個性的な活動で  
地域に生きる会社のドキュメント。

## 「正義感」がある。 減っていく 住宅需要を 掘り起こす

ニューハウス工業が現在力を入れている商品に、スケルトン・インフィル（SI）の考え方を取り入れたものがふたつある。そのひとつである「ブルームス（Blooms）」は、SIの木質フレーム構造（大断面集成材による純ラーメン構造）を採用。耐震性や環境配慮などとともに、間取りの自由度を売りにする。カタログにある「一般的な基礎のおよそ2倍の太さの地中梁」や「およそ3・5倍の太さの柱」などは、個人住宅の構造体としては少々過剰とも思えるが、ここにも「じつは40年前から考えていた」と言う村上さんの思いがこもる。

本の家づくりシステムの最大の欠点は、家の下取り制度がないこと。若い時期に家を建て、後に手狭になって住み替えをしようとしても、家の価値がなくなっているため、結局そのままがまんして住むしかない。それから最初に、しっかりとした躯体の大きなSI住宅を建て、収入の少ない時期は賃貸利用とし、将来大きな空間が必要になったときに自分たちで使えばいい。2世帯として利用することも簡単だ。もちろん、最初から親・兄弟など複数世帯で住むこともできる。

選択肢が広がるこうした試みは、個人の資金調達のみに頼る従来の家づくりの発想を大きく変える。40年におよぶ村上さんの思いは、ハード、ソフト両面で環境が整ってきたことによつて、ようやく商品として結実した。

今後の日本社会を考えたとき、住宅需要は確実に減っていく。そのとき、少しでも需要を掘り起こすには、収入などの条件が揃って家を建てられるようになつた人を待っているのではなく、若いうちに建てられる環境や仕組みを住宅産業側から整えていく取り組みが必要だろう。

いち早く立ち上げたメンテナンス会社のニューハウスサービスは、本社の50年におよぶ歴史と1万棟を超える実績に合わせて仕事を増やし、着実にグルーブの柱に育っている。村上さんの正義感に裏打ちされた先見性は、次の5年10年に向けて、日本の家づくりシステムの変革をも含めて、住宅産業をリードしていく。

今回取材したのは、Blooms「太陽が丘展示場」。写真右ページ上／1階のLDKにて、村上紀夫社長。チーク材の床やウォールナット材の備え付け家具など、木の質感もこの住宅の特徴のひとつ。写真下段3点／右より、約35畳の広々とした1階LDK、その見返し、1階玄関脇のトイレ。写真左上／2階浴室。左下／クリスタルカウンターが採用されている洗面所。



取材文／市川幹朗 写真／山下恒徳

Data



Blooms  
「太陽が丘展示場」  
の外観。

NEW HOUSE

ニューハウス工業株  
本社所在地  
石川県金沢市西泉1-66-1  
電話  
076(244)9120  
代表取締役社長  
村上紀夫  
会社設立  
1966年  
従業員数  
208名  
事業内容  
木造住宅の設計施工および  
工事監理  
住宅関連商品の売買  
大型木造建築物の設計施工  
および工事監理  
売上高  
78億4,000万円(2012年2月期)  
関連会社  
株ニューハウスサービス  
株ニューハウス地所  
七尾ニューハウス販売株  
魚津ニューハウス販売株  
URL  
[www.newhouse-newhouse.co.jp/](http://www.newhouse-newhouse.co.jp/)

Blooms  
「太陽が丘展示場」の  
TOTO使用機器  
トイレ  
静音ワンピース便器(CS806B)  
セラ洗面器(手洗い用)  
浴室  
スプリノ  
洗面所  
システムj(ML)

# スタジオ・ムンバイ展 PRAXIS

インド建築界を代表する建築家、  
 ビジョイ・ジェイン氏率いるスタジオ・ムンバイ。  
 多種多様な技能者が集う  
 ワークショップから生まれる、  
 インドの原風景の息づく作品を紹介。



Palmyra House

2007

Nandgaon, Maharashtra, India  
 ©Hélène Binet



Utsav House

2008

Satirje, Maharashtra, India  
 ©Hélène Binet



Studio Mumbai workshop

2005

Nagaon, Maharashtra, India  
 ©Studio Mumbai

## スタジオ・ムンバイのPRAXIS

文 / エルウィン・ピライ

京都工芸繊維大学大学院教授

「PRAXIS(プラクシス)」とは、理論や知識や技能を実演や実行に移すこと、体現すること、あるいは実現することである。場合によっては、考えを実行、応用、行使、実現、あるいは実施する行為を指す」 — ビジョイ・ジェイン

インドの大学で伝統的な建築教育を受けたジェイン氏は、アメリカに渡って欧米式の建築理論を学び、アメリカとイギリスで実務経験を積んだ後、1995年に地元ムンバイに戻り建築活動を始めた。以来、インドに代々伝わる伝統的な技能を用い、文化風土を取り込みながら、豊かな質感と空間性をもった作品をつくり続けている。

ジェイン氏の活動の特徴は、敷地の造成から設計、施工といった連の工程すべてを、職人たちの手作業で行うことにある。氏の活動拠点であるスタジオ・ムンバイのワークショップでは、インド各地出身の有能な職人たち(大工、石工、鉄工、金工、井戸掘り工など)とともにプロジェクトによって世界各地から有能なプロフェッショナルが集められ、約120名が住み込みで働いている。彼らはジェイン氏の指導のもと、地勢や気候を読み、井戸を掘って水源を確保し、地元由来の素材とそれに適した工法を用いて建築をつくっている。

TOTOギャラリー・間の「スタジオ・ムンバイ展 PRAXIS」では、ムンバイから車で4時間の海辺の村、アリバグにあるスタジオ・ムンバイの工房が、はるばる東京に運ばれてくる。展示会場に入ると、ドローイングやスケッチをはじめ、模型、建物の部材や部品、素材のスタディなど、さまざまな要素に遭遇する。それは、スタジオ・ムンバイのビジョイ・ジェイン、所員、大工、石工、そのほかの職人たちとの出会いでもあり、ス

次回予告

# 山下保博／ アトリエ・ 天工人展<sup>(仮)</sup>

建築素材の探求、気候への順応性、環境の保全、歴史的価値の保存など、さまざまなテーマを掲げ、住宅を中心に設計活動を行う建築家、アトリエ 天工人 山下保博氏。本展覧会では、発案したテーマを実証すべく、大学や企業とコラボレーションし、実作へと結びつける氏の建築姿勢を紹介します。

会期	2012年10月13日(土)～ 12月22日(土)
講演会	11月1日(木)／建業会館ホール ※事前申し込み制 詳細は9月中旬、 TOTOギャラリー 間 ウェブサイトへアップします。

## TOTOギャラリー・間

所在地	東京都港区 南青山1-24-3 TOTO乃木坂ビル3階
電話	03(3402)1010
ファクス	03(3423)4085
開館時間	11:00～18:00 (金曜日のみ11:00～19:00)
休館日	日曜日 月曜日 祝日、 および展示替え期間、 夏期休館8/12～20 ただし9/22は開館
入場料	無料
アクセス	●東京メトロ千代田線 「乃木坂」駅下車 3番出口徒歩1分 ●都営地下鉄大江戸線 「六本木」駅下車 7番出口徒歩6分 ●東京メトロ日比谷線 「六本木」駅下車 4a番出口徒歩7分 ●東京メトロ銀座線 半蔵門線、都営地下鉄 大江戸線「青山一丁目」駅 下車4番出口徒歩7分



www.toto.co.jp/gallerma/

## TOTOギャラリー・間で展覧会をします

### STUDIO MUMBAI: PRAXIS



ビジョイ・ジェイン (スタジオ ムンバイ主宰) / 1965年、インド・ムンバイに生まれる。90年アメリカ、セントルイスのワシントン大学で修士号を取得。89年からロサンゼルスとロンドンで実務経験を積んだ後、95年に帰国し、出身地ムンバイにてスタジオ・ムンバイを設立。スタジオ・ムンバイは、熟練職人と建築家からなる人的ネットワークにより設計・施工を一貫して行っている。ヴィクトリア&アルバート博物館 (2010) をはじめ、「ワークプレイス」で特別賞を受賞した第12回ヴェネチア・ビエンナーレ (2010) に出展。作品はアルヴァ・アールト シンポジウムやニューヨーク建築連盟などで紹介されるほか、2010年度アガカーン賞の最終選考にも残った。フランス建築協会 (IFA) の世界サステナブル建築賞 (2009)、ならびに香港デザインセンターのアジア・デザイン賞 (2009) を受賞。



### Copper House II

2011  
Chondi, Maharashtra, India  
©Hélène Binet

スタジオ・ムンバイで行われている設計活動のプロセスを体験することでもある。ここでは実際にスタジオで使われている椅子に腰掛け、スケッチブックが積まれたテーブルに手を触れ、キャビネットに並べられた本や模型を手にとってみることができる。また素材スタディに用いられたコンクリートパネル、漆喰壁、木製の枠などに、実際に手で触れて感触を確かめることもできる。これらの展示物は、文脈や空間を超えてアリバグの空気を、そこで日々繰り返られる生活を伝えてくれる。ここは、インドのローカルティを感じさせるだけでなく、スタジオ・ムンバイのユニバーサルティを示す場所である。さらに、私たちの内なる潜在意識を目覚めさせ、人がどのように建て、人体がどのように気候に反応するのかを思い出させてくれる。これらの出会いによって私たちは、これらの工程がどこでも実現できることに気づき、勇気づけられるだろう。ここ東京でも日本でも、同じことができるのではないかと。なにしろ日本には千年来の工芸の伝統と、ものづくりの知恵があるのだから。

TOTOギャラリー・間の「スタジオ・ムンバイ展 PRAXIS」では、来場者 人ひとりが、ビジョイ・ジェインと対話する場が用意されている。会場にはスタジオ・ムンバイの生活が、ビジョイ・ジェインの精神と日常生活が、実践が、日常の建築をつくる習慣が息づいている。



TOTO News 1

## 第10回環境・設備デザイン賞で、フロースカイとアクアオートがW受賞しました

第10回「環境・設備デザイン賞」の第I部門設備器具・システムデザイン部門で、「尿流量測定装置 フロースカイ」が最優秀賞を、「アクアオート（自動水栓 オールインワンタイプ）」が優秀賞とBE賞（公開審査時の来館者投票が一番多く集まった作品に授与される賞）を受賞しました。本賞は、建築における設備の重要性を訴求する目的で2002年から開催されています。建築界を

代表する方々を審査員として、公開審査で最優秀賞、優秀賞が決まる画期的な賞です。第I部門には14作品の応募がありました。「フロースカイ」では、日常的に尿流量計測が必要な方々にとっての製品の社会的意義を、「アクアオート」では、水栓本体にすべての機構を納めた技術力と自己発電による節電機能などを高く評価していただきました。



最優秀賞  
尿流量測定装置 フロースカイ



優秀賞、BE賞  
アクアオート  
（自動水栓 オールインワンタイプ）

TOTO News 2

## 3社共同ショールーム オープン!

TOTOは、お客さまにより快適な住空間を提供するために、DAIKEN、YKK APと商品企画・開発や販売支援体制などで2002年2月に業務提携し、今年10周年を迎えました。2012年11月には、3社の旗艦ショールームとなる「TDY東京コラボレーションショールーム」を、東京・新宿に竣工予定の「JR南新宿ビル」7、8階にオープンします。また、現在、東京都世田谷区にある建築専門家（プロユーザー）向けのショールーム「TOTOテクニカルセンター」を同ビル4、6階に移設します。

TDY東京コラボレーション  
ショールームが  
2012年11月、  
新宿にオープンします。



TDY  
Tokyo  
Collaboration  
Showroom  
**OPEN!**  
2012  
November

7、8階  
TDY  
東京  
コラボレーション  
ショールーム  
4、6階  
TOTO  
テクニカル  
センター

JR南新宿ビルの完成予想図→

TOTO News 3

## 「TOTO CORPORATE REPORT 2012」を発行

TOTOグループの企業活動全般を紹介する「TOTO CORPORATE REPORT 2012」を発行しました。企業理念から、100周年に向けた長期ビジョン「TOTO Vプラン2017」まで、TOTOグループの事業活動や目指す姿を、あらゆるステークホルダーのみなさまにわかりやすくお伝えすることを目的とした冊子です。一般の方により親しんでいただけるよう、わかりやすくエッセンスを詰め込んだ小冊子も同時発行します。また、財務や環境に関するデータをまとめた別冊「財務・ESGセクション」も7月に発行予定です。TOTOホームページではPDFでの閲覧や送付申し込みができるほか、CSR活動などの詳細情報を開示しています。

TOTOからのお知らせページです。  
イベント、新商品、最新情報など  
知っておいていただくと  
お役に立つ情報を心がけています。  
合わせてご注目ください。

cera trading news

CERA  
TRADING

セラのお知らせ

## 日本のバスルームにぴったりの浴槽ONTO(オント)を発売



### ↑ デッキ施工

DURAVIT社 ONTOシリーズ  
DV700233-00  
208,000円(税込218,400円)



### ↑ フリースタANDING施工

DURAVIT社 ONTOシリーズ  
DV700233-00 + DV8951-82  
398,000円(税込417,900円)

セラトレーディングでは、日本の浴槽を参考にデザインされたバスタブ、ONTOを発売しました。1400mm×800mmのコンパクトなサイズながら、深さは日本の浴槽をモデルに550mmにデザイン、肩まで浸かれる深さを実現しました。デザインは建築の分野でも活躍を続けるマテオ・トゥーンが担当、お手入れもしやすいシン

プルな形は「清潔=美」という考えのもとデザインされています。設置方法は、一般的なデッキタイプのほか、専用のパネルをセットすることでフリースタANDINGタイプとしても施工可能です。カタログのご請求は、セラトレーディングホームページまたはファクスにてお申し込みください。

[www.cera.co.jp](http://www.cera.co.jp)

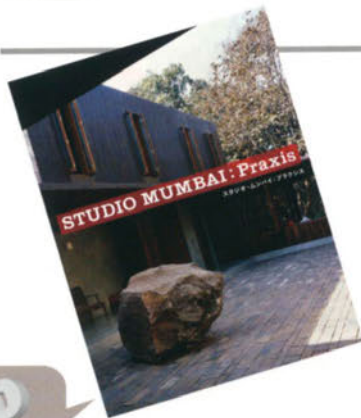


Book

## TOTO出版のお知らせ

TOTO出版

### 『STUDIO MUMBAI : Praxis(スタジオ・ムンバイ : プラクシス)』



インドにスタジオを構え、建築への新しい実践方法で世界中の注目を集めるスタジオ・ムンバイの日本初の作品集です。主宰建築家ビジョイ・ジェイン氏は、欧米からの専門家や多くの伝統技術を受け継ぐインドの職工とともに、静謐で質の高い建築をつくり出しています。最新作を含めた12作品、ジェイン氏はじ

めスタジオで働くコラボレーターや職工へのインタビューなどを収録し、スタジオ・ムンバイならではの仕事の進め方についてもくわしく紹介します。

#### プレゼント

同封の「TOTO通信アンケート」にお答えいただいた方のなかから、抽選で10名の方にプレゼントいたします。

- 監修/ビジョイ ジェイン  
+ジョセフ・ファン・デル・ステーン
- 協力/スタジオ ムンバイ
- 編集/TOTO出版
- 定価/3,360円(3,200円+税)
- 体裁/B5判変型  
(190mm×250mm)、  
ソフトカバー、220ページ  
和英併記
- 発行日/2012年7月11日

Present

※表紙デザインは変更することがあります。

[www.toto.co.jp/publishing](http://www.toto.co.jp/publishing)

### セラトレーディング

- 所在地/東京都港区  
南青山1-24-3  
TOTO乃木坂ビル  
1階 地下1階
- 電話/03(3796)6151
- ファクス/03(3402)7185
- 営業時間/10:00~18:00
- 定休日/日曜日 祝日  
夏期休暇 年末年始

### Bookshop TOTO

- 所在地/東京都港区  
南青山1-24-3  
TOTO乃木坂ビル2階
- 電話/03(3402)1525
- 定休日/日曜日 月曜日  
祝日・「TOTOギャラリー 間」  
休館中の土曜日  
夏期休暇 年末年始

### TOTO出版

- 所在地/東京都港区  
南青山1-24-3  
TOTO乃木坂ビル2階
- 電話/03(3402)7138
- ファクス/03(3402)7187
- 全国の書店でお求めください。  
直営店Bookshop TOTOでも  
お求めになれます。書店遠隔  
の方はお問い合わせください。



アクセス/●東京メトロ千代田線「乃木坂」駅下車3番出口徒歩1分●都営地下鉄大江戸線「六本木」駅下車徒歩6分●東京メトロ日比谷線「六本木」駅下車徒歩7分●東京メトロ銀座線 半蔵門線 都営地下鉄大江戸線「青山一丁目」駅下車徒歩7分

次号『TOTO通信』は2013年1月上旬発行の予定です。

あしたを、ちがう「まいにち」に。  
TOTO

# 空気を ジャブジャブ 使えば いいじゃん。

TOTO通信 2012年 夏号  
発行日:2012年7月1日 発行所:TOTO株式会社 マテリア推進部  
〒154-8540 東京都世田谷区桜新町2-24-2 TEL.03(5451)1131



この情報誌には植物性・天然素材のインクを使用し、環境に配慮した印刷を行っています。また、植物性インクは、印刷後も紙面に残ったインクが乾燥して植物性インクとして土壌に還元されます。



空気を含ませて、水滴を大粒化する「エアインシャワー」。  
大粒でたっぷりな浴び心地のまま、従来品より約35%も節水しました。



めざしたのは、「気持ちいい節水」。感性工学に基づき、浴び心地が良い水滴の特徴を解析。少ない水で量感たっぷりのかつてないシャワーを開発しました。最適流量で比べた場合、毎分10ℓから6.5ℓに大幅削減。CO<sub>2</sub>だって年間約132kgも削減できます<sup>※3</sup>。家計から見れば、水道代とガス代をあわせて年間約13,200円もお得<sup>※4</sup>。聞き流すのはもったいない、シャワーのお話でした。



エアインシャワー

●「エアイン」はTOTO(株)の登録商標です。①従来品とは、取り替え対象と考えられる10年以上経過したカーモスタート混合栓+節水流量10ℓ/分の従来シャワーを想定。②節水流量で比較した数字。節水流量とは、(社)日本V(工)業会の定める方法により社内モニターにて測定した「一番使いやすいと感じる流量」であり、流量の上限を意味するものではありません。③④4 設定条件は以下になります。使用料金の試算結果については、原則として100円未満を切り捨てて表記しています。【使用人数】=4人家族【年間使用日数】=365日【年間水使用量(従来水栓の場合)】=約49,100ℓ【年間ガス使用量(従来水栓の場合)】=約151m<sup>3</sup> ●省エネ法の「住宅事業建築主の判断の基準」における給湯設備の一次エネルギー消費量(東京)に基づき算出【使用料金】<水道料金>265円(税込)/m<sup>3</sup> ●東京都水道局(20A・30m<sup>3</sup>/月 上下水道含む)より<ガス料金>=165円(税込)/m<sup>3</sup> ●東京ガス(32m<sup>3</sup>/月)より【CO<sub>2</sub>換算係数】水=0.59kg/m<sup>3</sup> ガス=2.31kg/m<sup>3</sup> ●省エネ・防犯住宅推進アプローチャックより【ガス発熱量】45MJ/m<sup>3</sup> ●東京ガスより

TOTO GREEN CHALLENGE	7/2 新発売	浴室用水栓	キッチン用水栓
	TOTOのエコ水栓 GGシリーズ	エアイン(めっき) [TMGG40EC]	エアイン(樹脂) [TMGG40E]
			エコシングル水栓 [TKGG31E]

商品についての技術的なお問い合わせ 0570-01-1010 受付時間 平日9:00~18:00/土曜日9:00~17:00(日・祝日、夏期休暇、年末年始は除く) [www.com-et.com](http://www.com-et.com)

TOTO通信のお届け先などの変更はお客さまNo.(封筒の宛て名ラベル右上に記載)も併せて下記までご連絡ください。  
TOTOカタログセンター内 TOTO通信データ管理室TEL.093(563)2055 FAX.093(571)0999  
\*当社ならびに当社グループ会社は、個人情報の保護を社会的責務と考えます。お客さまからお預かりした個人情報は、関連法令および社内諸規定に基づき慎重かつ適切に取り扱います。詳細はTOTOウェブサイト(www.toto.co.jp/)をご覧ください。